

アセンションBOOK 5

天の川銀河の物語 NO5

2014年2月

Peace of Galactic Cluster

天の川銀河の物語 5

先進テクノロジーの星の悲劇



先進テクノロジーの星の悲劇 目次

- 第1章 私達の活動と創造主達の役割
- 第2章 メラク星のアルカス
- 第3章 高度なテクノロジーを築いた大熊座
- 第4章 アンドレッド星からきたマスター達
- 第5章 女神と星を守る大熊座の騎士団
- 第6章 星にかけられた宇宙最高度の封印
- 第7章 星形宇宙船タリタ星の秘密
- 第8章 大熊座の新たな旅立ち

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式 HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

星座のイラストは下記からお借りしました。

88 星座図鑑 自然学習館

http://www.study-style.com/index_seiza.html

第1章 私達の活動と創造主の役割

PART1 私達の活動と仲間達

今回は、大熊座の物語を始める前に、私達の活動の進展や創造主との関わりなどについてお話ししていきましょう。

この大熊座の話からは、創造主達が様々な局面で関わってきますので、創造主について、地球の常識を少し変えてもらわないと私の話は理解できなくなるからです。

私達は、天の川銀河のいくつもの星を回りながら、星座に関わる役目を知り、困難な問題を解決してきました。

しかし私達の活動範囲は更に広がっていきました。

地球上、イエス・キリストと呼ばれるマスターのスピリットは天の川銀河を見守る創造主の1人でもありますが、同時に彼のスピリットは、アンドロメダ銀河の偉大なマスターの1人でもありました。

私達は、イエスの願いにより、アンドロメダ銀河の中心的な星であるアールスター星の救助に行き、彼らの星を次元上昇させる事ができました。

それ以来、アンドロメダ銀河のマスターであり、天の川銀河を見守る創造主であるイエスと共に活動するようになりました。

イエスのスピリットである「グレート・イエス」と共に行動する事によって、私達は新たに2つの世界に入って行く事になりました。

そのひとつは、天の川銀河だけでなく、この宇宙全体を創造し運営する創造主達の世界です。創造主は、宇宙というものを運営する為に、様々な役割を分担して仕事をしています。地球では、全知全能の唯一の創造主という考え方が普通で、創造主はたった1人しか存在していなくて間違いなど起こさない絶対的な存在であると考えられています。

しかし、私達が体験している宇宙では、創造主もいくつもの階層や役割に分けられており、数多く存在しています。

創造主は1人1人個性と特質があり、自分の役目に応じて活動していますが、中には傲慢で自己中心的な創造主もいます。

一番身近な創造主は、天の川銀河の星々や星座を守護する創造主達です。

この創造主に関しては、今迄の星のツアーの物語にもたくさん出てきました。

彼等の上には、ギリシア神話のゼウスやアユルバーダーのインドラのような星々を創造する

創造主がいます。

彼等の創造は単一の星に限られ、宇宙の創造はさらに上位の創造主が行います。

星々を創造する創造主や守護する創造主の上には、アディティヤと呼ばれる天の川銀河の統治をおこなう創造主がいて、ブッダやアリターリアと呼ばれる創造主がサポートしています。

彼等は天の川銀河を中心として活躍します。

アディティヤの上には、私が冒頭で紹介したグレートイエス、アールスター、アリアドネと呼ばれる創造主がいて、彼らの行動範囲は、天の川銀河やアンドロメダ銀河を含めた局部銀河です。

更に、この局部銀河を統治する創造主がいます。

そのリーダーは、私が界王と呼んでいる創造主のグループです。

あるマンガに出てくる同じ名前のキャラに、体型も役目もそっくりなので、名前をお借りしました。

界王は、局部銀河を統治しますが、この界王の下に役目に応じて様々な創造主が存在しています。

界王の下には、創造主中でも位が高く大変な力を持っている創造主達があります。

それが創造主の名前の前に「グレート」という名称がついた創造主で、グレート・イエス、グレート・マリア、グレート・スターと呼ばれる創造主で、グレート・ゴッデスと総称されます。

グレート・ゴッデスの下には、局部宇宙のために具体的に働く創造主達が控えています。

前回の「生命の水」で大活躍したユニバーサル魔法使いもその 1 人ですが、他にも全ての生命に試練を与えたり、宇宙の法律を司るエルシーダやオニクスといった創造主もいます。

また、人々に愛や夢を与えるテレージアやファンタジアなどの創造主もいます。

さらに、私達が新しい種族を生み出す時に力を貸してくれる創造主もいます。

そして、グレート・ゴッデスや界王達の上に行くとは何かあるかというと、「根源の世界」という場所があります。

ここでは、創造主だけでなくドラゴンや天使達も一つに統合される「愛」の世界です。

そしてもう一つ、私達が探索したのは、宇宙の闇に関わる世界です。

闇という言葉は、本当は適切ではありません。

陰陽という言葉と役割の方が適切ですね、陽が創造された宇宙、創造主達の宇宙だとすれば、陰は創造の源となる世界です。

この陰の世界にも創造主達はいて、私はグレート・スターのゴッデス達と呼んでいます。彼等は、表に出る事なく、この宇宙の創造のエネルギーを陰（かげ）で生み出しているのです。

闇の世界の中で、創造の光を手繰り寄せ、美しい布を織るようにして宇宙を織り上げていきます。

ただし、この陰と陽の世界にも、自分の役目をしっかりと果たしていない者達があります。それは、闇のエネルギーに侵されて理性を失い自己中心的な活動をしている者達です。それを処理するのが、黒の魔法使いや黒の騎士団、黒の天使達のグループです。彼らは、生きる道を誤った者達を立ち直らせて本来あるべき生き方をさせるように指導します。彼らが立ち直らなかった場合には、その生命を終わらせる事もあります。

またこの陰の世界にはもう一つのグループがあります。それは、これからよく登場するクラシャー連合やある種の地球外生命体達です。彼等は天の川銀河の星々を攻撃して、人々を苦しめますが、それは様々な障害を与える事で、その星に住む種族達を成長させようとする創造主の意図なのです。

クラシャー連合達も、偉大なる創造主の指示で動いているのですが、その事に気づく人は少なく、彼らの事を憎み戦おうとします。もちろんクラシャー連合自身も気づいてはいませんので、海賊のような行為を繰り返しているのです。叡智ある生命体達は、彼等との戦いの中で、様々な事に気づいていくのです。それでは、大熊座の物語を始めましょう。

第2章 メラク星のアルカス

PART1 大熊座に関する女神からのメッセージ

私達は、「生命の水」に関する問題を解決するために、みずがめ座やくじら座を回り、星々の問題を解決してきました。

そして休む間もなく次のミッションが始まりました。

今回は大熊座の問題ですが、実はこの大熊座一つだけでかなり多様な問題が引き起こされている事を、私達は知る事となりました。

女神からのメッセージからご紹介しますが、このメッセージは、私達を大熊座に導く呼び水にしかすぎません。

大熊座に入った時に、私達はこの宇宙の最新の科学技術が、大熊座に隠されている事に気づいたのです。

私は、大熊座に関わる女神の1人です。

今回は皆さんに大熊座に関する問題を解決していただきたいと願っております。

もともと神話では、ゼウスとの間に子供を作ったニンフであるカリストーが、ヘラの怒りに触れて熊に変えられた事が始まりです。

カリストーの子供であるアルカスが、森で出会った熊を弓矢で射抜こうとした瞬間にゼウスによって親子とも星座にされてしまいました。

しかしニンフのカリストーは、星になっても、子供に対する気持ちを癒す事がなく、いつまでも小熊を追いかけているのです。

カリストーの子供に対する盲目的な愛が、大熊座の働きを壊し乱してしまいました。

本来ならば、大熊座は、おとめ座や牛使い座と協力して、この宇宙の時と空間の創造に関わるべき星座です。

大熊座の背中にある北斗7星は、新たに作りだされた時と空間をこの宇宙に広げて、創造主の創造のエネルギーを伝えていくものです。

しかしながら、本来すべての生命に対して「創造の愛」を伝える大熊座の働きが機能していないために、この天の川銀河には「創造の愛」が十分に満ちる事ができません。

宇宙の様々な星に生命の創造を行う「ペテルギウスのダイヤモンド」の星達にとっても、空間と時間の創造がなければ、生命の創造もできないのです。

大熊座の働きが本来のものとなる事によって、天の川銀河の時間と空間は、あるがままに創造されて行きます。

大熊座は、ニンフのカリストーがあまりにも子供を愛するために、愛の奴隷となってしまいました。

小熊に変えられた子供を呼び戻してください。

彼も母親への愛に満ちています。

ただし母親はすでに闇にのみこまれているので、理性を失っています。

彼女には、魔法も役に立ちません。

ただ愛だけが効果的な方法です

お腹の所にあるドウーベ星には、大熊座の創造主がいます。

彼も、愛の亡霊によって過去の記憶の中に閉じ込められています。

ここは、記憶の墓場とも呼ばれている場所で、時間が止まっています。

ここに迷い込んだ者は、この記憶の狭間の中で迷子になり、記憶を失っていくのです。

私は、このメッセージを受け取った時、あまり意味が分かりませんでした。

しかし、大熊座で大変な事が起きており、その問題を解決しなければ、天の川銀河にもさまざまな障害が起きてくるという事だけはわかりました。

そして、今まで私達が巡ってきた星座も、大熊座がきちんと機能しないと十分に働く事ができないという事もわかりましたが、一体どうしたらよいか、わかりません。

とりあえずは、大熊座に行ってみる事が始まりのようです。

PART2 メラク星のアルカス

始めて行う大熊座の星のツアーは 2014 年の 12 月 14 日に行われました。

私達は最初にどの星に降りればよいか、わかりませんでしたので、天の川銀河の創造主であるアディティーヤの神殿へと向かいました。

このころはもうすでに、私達の拠点を地球上にあるガイアの神殿から、天の川銀河の中心にあるアディティーヤの神殿へと移していました。

アディティーヤの神殿は、とても波動が高く、天の川銀河やそれ以上の宇宙に関わる創造主や女神、マスター達も自由に訪れる事ができます。

そして、私達の仲間になってくれたり必要な情報を与えてくれる事ができるようになります。

14 日は、私達に今回メッセージをくれた大熊座の女神が待っていました。

「皆さんとこのようにしてお会いできる事を、私はとてもうれしく思います。
今回は大熊座のために、皆さんが動いてくださる事になり、とてもうれしく思います。
私から、言える事は、どうかメラク星に降り立ってください。
そこからすべてが始まると思います。」

私達が、話をしている間にシェンロン達が光の通路を作っているようです。
大熊座の近くにあるこぐま座のポラリスは、私達も良く行くので光の通路はすでにできています。
そこから大熊座のメラク星までは、大した距離ではないのでさほど時間がかからずに光の通路はできそうです。

私達は、シェンロン達が作ってくれた光の通路をとって大熊座のメラク星に降り立ちました。
メラク星には、森と湖や小川がたくさんあってとても美しい星です。
まるで地球の光景とそっくりなので安心していきます。
しかし、この星に来た理由は一体なんなのでしょう。

すると森の方から、弓矢を持った青年が近づいてきます。
宇宙の光のメンバー達は、その青年が近づいてくるのを見守っています。
葵さんが、「彼はカリストーの息子のアルカスじゃないかしら。」と言い出しました。
確かにこの場面では、アルカスを除いてほかにいないと思われる。

「皆さんお待たせしました。
大熊座の女神から、母さんを救い出したいので手伝ってほしいと言われてやってきました。
私がお役にたてるかどうか、わからないのですが、私にできる事はなんでも言ってください。」

美緒さんが、アルカスに会えた事をととても喜んでいきます。
何しろイケメンに弱い性格なので、普段とは全然違う話しぶりです。
「あなたはアルカス様ですか、私達もあなたの事をお待ちしておりました。
今回は、大熊座の神話のもとになった、あなたのお母さんとうまく会えるといいですね。」

しかしアルカスはすこしクールです。
「あれはあくまでも神話ですから、本当はそんな簡単な問題ではないかもしれませんね。」
美緒さんは次の言葉を失って立ち尽くしています。

私はアルカスに尋ねます。
「初めまして、私達は、大熊座の女神の要請でここに来たのですが、正直なところ、この大

熊座の状況や私達が何をしたらよいか分からないのです。
あなたが、この大熊座の状況を知っていたら教えていただきたいのですが。」

アルカスは、私を見てうなずくと言いました。

「私が話すより、いくつもの星を訪ねて、あなた方の目で確かめてください。
私も一緒に行ってご案内しますから。」

私達は、アルカスと共にメラク星を出てトゥーベ星へと向かう事にしました。

第3章 高度なテクノロジーを築いた大熊座



PART1 ドゥーベ星の破壊された建物

ドゥーベ星の様子を調べるためにわし座騎士団とペガサス騎士団、そしておおかみ騎士団に星の偵察に行ってもらいます。

しばらくするとわし座騎士団のビジョンから連絡が入りました。

「TAKESHI さん、森の中に不思議な建物のようなものがありました。誰かからの攻撃を受けてだいぶ破損しています。

人はいないようですが、建物だけが壊されたまま残っています。」

私達はシェンロンに乗ってすぐにその場所へと向かいました。

私達に緊張感が走ります。

確かに大きなお城か神殿の跡のような建物がありますが、いたるところに砲撃されたり、壊されているところがあります。

ちょうど、中南米のマヤ遺跡にも似ている感じです。

私達は、さらに全ての騎士団でこの遺跡を探索してもらいます。

騎士団達の報告によると、この遺跡のように見える建物の中には、特別変わった物はなく、かつて人々が暮らしていた跡が残っています。

これは領土争いか、異なる種族同士の抗争か、私にはわかりません。

「アルカスよ、あなたは、この争いがなぜ起きたのか、わかりますか。

この人達はどこに行ったのか、知っていますか。」

アルカスは、建物の床を調べているようですが、「きっとどこかに地下へと入る通路があると思いますよ。」と言います。

私は、ユニバーサル魔法使いにお願いして、この建物の地下の次元を調べてもらいました。

ユニバーサル魔法使いは、しばらく呪文を唱えていました。

「TAKESHIさん、この建物の地下には、確かに地下室があるようです。

しかし、魔法の力のようなもので、この地下室が隠されているようですから、きっと近くに魔法使いがいて、この地下室を守っていると思います。

その魔法使いを探しましょう。」

このような時に役に立つのが、やはりおおかみ騎士団です。

魔法使い達はいろんなものに姿を変える事ができますが、彼等の匂いだけはそのままでですから、匂いに敏感なおおかみ騎士団なら見つける事ができると思います。

おおかみ騎士団は、匂いを嗅ぎながら、この遺跡の周りを探し回っています。

私達はその間に、この破壊された建物を調べてみる事にしました。

すると、所々にある装飾や壁にいくつもの文字が描かれている事が分かります。

きっと素晴らしい文明を持っていた人達が住んでいた事でしょう。

おおかみ達の吠える声が森にこだまします。

どうやらおおかみ騎士団が、誰かを探し出したようです。

私達はその場所に行くと、森の樹木に化けた魔法使いが、おおかみ騎士団に足をくわえられて転げまわっています。

私達が来た事を確認すると、おおかみ騎士団は、魔法使いの足を離して見張ります。

私は、彼の手を引っ張って立ち上がらせます。

「大変乱暴な事をして申し訳ありませんでした。

私達は、この建物の秘密を知りたいと思い、地下へとつながる通路を探しているのです。」

樹木に化けた魔法使いは、通常の姿に戻ると非常に怪訝な顔をして私達を見ている。

「私は、この建物の事も全く知らない者だから、私にかまっても無駄だ！」

彼は、そうやって森の中に立ち去ろうとしましたが、吠え立てるおおかみ達に行く手を阻まれます。

そこにアルカスがやってきて声をかけます。

「やあ、リヒャルドおじさん、しばらくだったね、元気だったかい。」

その声を聞いた魔法使いはおどろいて振り返ります。

「その声はアルカス、お前さんが、メラク星から出てくるとは珍しいな、この人達はお前さんの仲間かい。

えらく変わった集団だけど、一体どうなっているんだい？」

PART2 魔法使いリヒャルドと建物の秘密

アルカスとリヒャルドと呼ばれる魔法使いは、昔からの知り合いのようです。

「リヒャルドおじさん、話せば長くなるけど、これもあの大熊座の女神の仕業だよ。

彼等は、地球から来た TAKESHI さんと巨人族や天の川銀河のいくつもの騎士団、そして高名な魔法使いさん達のグループだよ。

白鳥座の周りの星座達やオリオン座の星々が次元上昇して、天の川銀河の働きが正常に戻った話は知っているかい。

それは彼等がやった事だよ。」

魔法使いのリヒャルドも、私達が決して悪人ではないと知って安心しています。

私達の方に戻ってきて、私達の仲間を見えています。

「そうですか、それなら安心だ、」

魔法使いのリヒャルドは、ユニバーサル魔法使いをみて急に態度が変わります。

「あなたはこの天の川銀河の魔法使いを取り締まるユニバーサル魔法使い様ではないのでしょうか。

大変失礼しました。」

ここでもユニバーサル魔法使いの権威は絶対のようです。

「魔法使いのリヒャルド、確かに私はユニバーサル魔法使いだが、そんなにかしこまらなくてもよい。

私達は、この建物の地下に何があるのかを知りたいのだ。

そして、この攻撃がなぜ行われたのかも知りたい。」

「ユニバーサル魔法使い様、私は知識の門番と呼ばれる魔法使いで、この建物を守る役目を担っておりました。

この建物が、侵略者達に見つからないように、魔法のベールをかけ、森の樹木しかないように見せかけておりました。

そして侵略者が来たときは、森の動物達を呼び寄せて、侵略者達を追い返そうとしていたの

です。

しかし、あのクラシャー連合にだけは、私の魔法も通用しなかったようです。
この建物も荒らされてしまいましたが、地下だけは何とか守る事ができました。」

私は、この星を攻撃したのがクラシャー連合ときいて、背筋が寒くなる思いがしました。
前回、うみへび座のアルファルド星を襲ったのもクラシャー連合でした。
そして、天の川銀河だけでなくアンドロメダ銀河でも大暴れしているのが、このクラシャー連合なのです。

そのやり方は、残忍で破壊的です。

しかも予告もなく突然、大掛かりな集団でやってきますので、被害も大きくなります。
おそらく被害にあった星はここだけでは無いでしょう。

リヒャルドもクラシャー連合からこの星を守るために働いていたようです。

私達は、彼の案内で、森の樹木の中に隠された地下への階段を下りていく事にしました。
この階段は通常は、樹木の中に隠されていて見つからないようにしてあります。

リヒャルドと共に階段を下りていくと、そこには大きな部屋がありました。
破壊された建物とは比べ物にならないほどの近代的な部屋で、私達が日常的に使っている様なコンピューターも置いてありますが、私達の物よりもデザイン的に洗練されていて近未来的な感じさえもします。

部屋の中には、さらに高度な機能を持つと思われる機械が入った箱が並べられています。

私達が、この部屋に急に入ってきた事に驚いて、とても体格の良い者達が私達の前に現れました。

全身毛むくじゃらでうなり声をあげています。

その姿に、宇宙の光の女性メンバーは驚いて騎士団達の後ろに隠れました。

リヒャルドが彼らの前に出て言いました。

「大丈夫だよ、この人達は私達の仲間だ。

大熊座を助けるためにここに来てくれたのだよ。」

そう言って体格の良い者達に私達の事を説明しています。

彼らは、この星の高度に発達したテクノロジーと知識、およびその社会を守るための騎士のような存在であるようです。

彼等の事をじっと見ていた遥さんが言いました。

「私には、彼らはとても優しい熊さんの様に見えますわ。」

確かに、優しい表情をした熊の騎士団です。

大熊座ですから熊が騎士団を作っても不思議ではありません。

さっそく、さそり座騎士団の団長が、彼らと話をしています。

ただし、この星のテクノロジーを使用していた人達の姿は見えません。

これだけの設備があれば、少なからず科学者や技術者がいてもおかしくないはずです。

まさか、この熊さん達がこの技術を開発したとも思えません。

私は、その理由をリヒャルドに尋ねます。

「クラシャー連合は、この建物の地下にある研究所に気づかず、この研究所の情報を奪う事ができなかったのも、この星のマザー・クリスタルを攻撃して、クリスタルを傷付けてしまったのです。

そのために、この星が次元降下してしまい、この星にいた科学者達は、この星に存在する事ができなくて、他の場所に移っていきました。

彼等をここに戻すためには、マザー・クリスタルを復活させて、この星の次元上昇を行わなければなりません。」

リヒャルドは、私達の顔を見て、何かを思いついたようです。

「そうだ、皆さんは、そのために、あの女神に頼まれてこの大熊座に来たのではないのですか。

私が案内しますから、どうかマザー・クリスタルを元に戻して、この星の次元を上げてください。

お願いします。」

私達はリヒャルドと共に、この星のマザー・クリスタルを活性化する事にしました。

「TAKESHI さん、マザー・クリスタルは、この城を中心として東西南北に4つのクリスタルがあります。

実はそれぞれのクリスタルには、とても大切な役目がありまして、この4つのマザー・クリスタルが、活性しない事には、星も次元上昇しません。」

「それはどのような役目を持っているのですか、」と私は尋ねます。

「北のクリスタルは神聖なる叡智をつかさどるクリスタルです。

西のクリスタルは、愛をつかさどるクリスタル、東のクリスタルは、癒しをつかさどるクリスタル。

そして南のクリスタルは、正義とパワーをつかさどるクリスタルです。」

「わかりました。それでは、それぞれのクリスタルに、私達のメンバーを分担して配置し、次元上昇を行わせましょう。」

私は、宇宙の光のメンバーである、美緒さん、葵さん、遥さん、そして私をリーダーにして、それぞれのチームに魔法使いや騎士団を割り振ります。

ユニバーサル魔法使いは、自分の弟子であるオギュームとリムも呼んでくれましたし、サンジェルマンとマーリンも張り切っています。

そして、リヒャルドとこの星を守る熊さん達も、グループに1人ずつついてもらい、マザー・クリスタルの場所へと案内してもらう事にしました。

私は、メンバー達に、クリスタルの修復のために、うお座のエロースからもらった「生命のしずく」を持たせます。

それぞれのメンバーが、少し不安そうな顔をしながら、森の中に消えていきますが、きっと彼女達ならやり遂げるでしょう。

しかも力強い仲間達もいる事ですし。

私は、リヒャルドと一緒に、マザー・クリスタルの中心となる北のクリスタルに行きました。確かにクリスタルは傷ついてはいますが、おそらく大熊座の女神達がこのクリスタルを守っていたのでしょう、クリスタルは完全に破壊されることなく残っています。

メンバー達の虹のワンドで光を送り「生命のしずく」を与える事で修復はできるはずです。また、魔法使い達の神聖幾何学により、クリスタルは甦り、再び光り輝く事でしょう。

私達は、クリスタルの活性に入りました。

クリスタルの傷を、虹のワンドと「生命のしずく」で修復します。

騎士団達も周りで祈りをささげ光を送ってくれました。

私と共にきた魔法使いは、マーリンとサンジェルマンでしたので、2人が神聖幾何学を描いていきます。

そして私は、さらに光の遺伝子をクリスタルにいれ、この北のクリスタルを通して、他のクリスタルもさらに活性するように祈りました。

やがて北のクリスタルが活性して大きく輝き始めました。

光が周りにあふれ、森の木々達を照らしています。

他のメンバー達からもクリスタルが活性してきたと、連絡が入ってきました。

私は、このクリスタルの活性化した光を、ひとつにするためにユニバーサル魔法使いにお願いして、この星の上空に高度な神聖幾何学を描いてもらい、クリスタルの光を統合します。そして、グレート・イエスなどのグレート・ゴッデス達にお願いしてドゥーベ星の次元上昇を行います。

私達の足元が、グラグラ揺れるような感覚が起こります。

この星のエネルギーはとても大きいので、次元上昇の時に、私達にもエネルギーの上昇が体感できるようです。

星の次元が上昇していくと、今度は4つのクリスタルの中央、つまり先ほどの建物の上空に新たな巨大クリスタルが姿を現します。

PART3 高度なテクノロジーを築いた大熊座

ドゥーベ星の次元が上昇した後に現れたクリスタルは、神聖なる光のクリスタルで「リーナ」と呼ばれています。

私達は、シェンロンに乗って、上空に現われたクリスタルのもとに集まります。クリスタルの「リーナ」に光を送り、「生命のしずく」を与えます。

魔法使い達は、高度な神聖幾何学を描き、クリスタルを活性化して目覚めさせようとしませんが、未だ目覚めてこないようです。

私達が、クリスタルに光を送ると、不思議な事に、クリスタルの中に大きな人影というか熊影が映ります。

通常はクリスタルの中から美しい女神があらわれてくるのですが、ここは大熊座ですので、もしかしたら巨大な熊が目覚めてくるのかもしれませんが。

しかしクリスタルの中に有る人影がなかなか目覚めませんので、リヒャルドが私にひとつの提案をします。

「このクリスタルを目覚めさせるためのサブ・クリスタルがあるはずですよ。確か、私は先代の魔法使いから、その様に教わった気がします。」

私は、魔法使い達にお願いして、サブ・クリスタルを探してもらいました。するとサブ・クリスタルは、大きな岩の中に隠されていたようです。

サブ・クリスタルを目覚めさせると、その光がリーナのもとに走り、クリスタルの内部で光が輝き始めました。

そして、クリスタルの中から女神リーナが目覚めてきました。

私達が上空のクリスタルを見ていると、女神がずっと私達のもとに降り立ってきました。降りてきた女神は熊の姿ではなく、私達が通常見ている女神の姿をしていました。

リヒャルドが、その女神の前にひざまずき敬意を表しています。

「あなたはリヒャルドね、いつも私達の事を守ってくれてありがとう。

私がこの星に戻ってこれたという事は、誰かが、この星の次元を上昇させてくれたという事ですね。」

リヒャルドは、私達を指さします。

女神リーナは、私達の方を見てにっこりと笑います。

「あなた方が、この星のクリスタルを活性化して、この星の次元上昇を行ってくれたのですね。

本当にありがとうございます。

それにしてもユニークなグループですね。

様々な星の方や巨人族の方、魔法使いさん達もいるようね。」

と女神リーナはにこやかに笑います。

「はい、私達は地球から来た TAKESHI と宇宙の光のメンバーです。

そして巨人族のスティックスと天の川銀河の優秀な騎士団達、そして宇宙の魔法使いを中心とした魔法使いのグループ達も加わっています。」

女神リーナは、これほど多彩なグループに会った事がないようで喜んでいます。

「本当に素晴らしいわ、私もこの天の川銀河の星々は種族を超えてもっと協力し合わなければならぬと考えています。

私達の技術や考え方はまだまだ幼いのです。

この宇宙には、私達をはるかに超える技術や叡智を持っている種族がたくさんいますので、私達は彼等から多くの事を学ばなければなりません。

そうしなければ、悪意をもって私達の星に入ってくる人達の支配を受けてしまう事になるでしょう。

私は、皆さん達の様に、種族を超えて協力し合っているグループが、天の川銀河に生れた事をととても喜んでいます。」

「女神リーナよ、喜んでいただいて光栄です。

私達はまだ、生まれたばかりで、天の川銀河の様々な星の事を学んでいる最中ですので、どれほど皆さんのお役に立てるか分かりませんが、努力はしています。」

「TAKESHI さん、何をおっしゃっているのですか、皆さんが行ってきた事は上の次元では大変な評判ですよ。

皆さんの事を知らない女神やゴッデス達はいません、皆さんが TAKESHI さん達に期待しているのです。」

でもこれからが、あなた方にとっては正念場ね、これから、あなた方の実力を試そうとする者やさらに鍛えようとする者達も現れてきますから、気をつけてくださいね。」

私は、「はい、分かりました。」と答えたものの、女神リーナが言った事の真意が、その時は分かっていませんでした。

しかし、彼女の言葉を理解する時は、そんなに遠い日の事ではありませんでした。

女神リーナはこの大熊座の騎士団の守護者的な存在で、大熊座の高度に発達したテクノロジーを守り、おとめ座や牛飼い座によって作り出された時と空間を運用するお手伝いをする女神のようです。

ただし現在、このテクノロジーを開発し運用していたメンバーは、大熊座の星々が次元下降していますので、この星に存在する事ができず、上の次元で大熊座の星々が次元上昇してくるのを待っているようです。

その間、大熊座騎士団がこの大熊座の星々を守っているのですが、現状はクラシャー連合の攻撃をいくつもの星が受けていて、けっして良いとは言えない状況です。

私は、女神リーナにこの大熊座の事を尋ねてみました。

「TAKESHIさん達が不思議に思うのも当然です。

この大熊座は、天の川銀河の中では、考えられないくらいの科学技術が発達しています。

やがてあなた方もお会いすると思いますが、大熊座の星々は、天の川銀河以外の星から来た人達が、彼らの最先端の科学技術を持ちこんできているのです。

その技術は、天の川銀河の中でも特殊な技術なので、他の星々には知られないように隠されて研究が行われています。」

私は、天の川銀河以外の人々がこの大熊座に関わっていると聞いて驚きました。

「それでは、どのような科学技術がこの星座で研究されているのですか。」と私は尋ねます。

「特にこの大熊座の北斗七星は、それぞれの星が、専門の科学技術を研究しているのです。

メグレス星は、コンピューターの技術に優れ、時と空間をつかさどる仕事を行っています。

フェクダ星は、宇宙船を活用するための機械技術を中心にテクノロジーを発展させました。

アリオト星は、宇宙船やエネルギーの原動力に関する技術。

ミザール星は、方舟型宇宙船の研究。

アルカイド星は、エネルギーのバランスなどに関する技術です。

ただし、現在技術者は、クラシャー連合などの攻撃に備えて別の次元に移動しているようです。」

「それは、私達も全く知りませんでした。

この建物の地下に入った時に、近未来とも思えるような機械があったのはそのためだったのですね。

クラシャー連合は、その秘密に気づき、その科学力を奪うために、この星を攻撃してきたのですね。」

「そうなのです。

私達は、基本的には武力を持たないので、彼等の攻撃を防ぐ事ができませんし、この星の科学技術は秘密にされているので、公に助けを呼ぶ事も出来ません。

そのために、大熊座の女神が本当の事を隠して、皆さんをお呼びしたのだと思います。」

「そうだったのですね、これで私達が来た理由が分かりました。

すると精霊のカリストーの話は嘘だったのですか。」

「精霊のカリストー？

それは女神カリストーの事です。

彼女はこの大熊座のテクノロジーを、この北斗七星の間でコミュニケーションをとりながら分かち合う事を仕事としていましたが、クラシャー連合の最初の心理攻撃により気持ちを攪乱されてしまい、子供の面影を追い求めるようになったようです。

現在カリストーの意識は肉体を離れ、星の間をさまよっていますので、まずカリストーの意識を元に戻す必要があります。

これも、いくつもの次元を自由に入って行ける皆さんでないと解決できない問題ですので、どうかよろしくお願いします。」

私達は、今夜の星のツアーで大熊座の謎を一気に解きほぐす事ができましたが、それと同時に、大変な問題がここで起こっているのだ、という事にも気づかされました。

今夜の星のツアーは、時間が来たのでこれで終了です。

私達は、来週の星のツアーで再び会う事を約束して大熊座から地球に戻ります。

第4章 アンドレッド星からきたマスター達



PART1 フェクダ星の次元上昇

私達は、今回も、創造主アディティヤの神殿から大熊座のドゥーベ星へと旅立つ事にしました。

私達が、神殿につくと、大熊座からドゥーベ星の女神リーナの使いとして、大熊座騎士団のアーノルドという熊の騎士が、私達を迎えに来てくれました。

私達は、アーノルドを伴ってドゥーベ星に入ると、すぐに大熊座騎士団の団長である女神リーナに来ていただきました。

私達はこれから、北斗七星の星々を巡る事になりますが、その前にこの7つの星を結びつけるための光の通路を作る事にしました。

私と女神リーナとの間にエネルギーをつなげ、大熊座の星々の位置関係を私が把握します。そして、その位置関係に基づき、星の通路を騎士団やシェンロン達全員で作ります。シェンロンや騎士団が空を駆け巡り、星と星をつないでいくと、美しい光の道が大空に出来

上がります。

これで私達も大熊座の人達も、星と星の間を自由に行き来きできるようになります。

今回私達は、ドゥーベ星の近くにあるフェクダ星を訪れる事にしました。

この星は、さほど攻撃を受けているわけではないのですが、ドゥーベ星の次元降下の影響で、星の次元が少し下がっているために、星の機能がストップしています。

この星に降り立った時、この星はごつごつした岩場が多い、荒涼とした星に見えます。

おそらく、この星の地下にこの星の人達は住んでいるようです。

女神リーナが、地面に何かの記号を書いています。

おそらく地下への入り口を開いているのでしょう。

女神リーナが私達に声をかけます。

「さあ、私についてきてください、この星にある研究所に入りましょう。」

私達はそこに開いた扉から、フェクダ星の地下へと入っていくと、そこはドゥーベ星と同じような近未来的な部屋がありました。

しかも、その規模はとても大きいようで、さらに多くの機械やモニターが並んでいます。

私達が、研究所に入っていくと、すぐに何人かの熊達が集まってきます。

おそらくこの研究所を警備しているようですが、私達が来た事に大きな警戒を表しています。

女神リーナが、彼等に声をかけます。

「皆さん、これから私達は、大熊座の星々を次元上昇させて、昔のように科学者達をこの研究所に戻さなければなりません。

彼等は、そのために、地球や様々な星々から集まってくれた騎士団や魔法使いの皆さん達なのです。

彼等は、天の川銀河のために、多くの問題を解決し、星々を平和にしてくれました。

きっと大熊座も、彼等の力によって、昔のように素晴らしい星へと戻るでしょう。

そのために皆さんも、ぜひ協力してください。」

女神リーナが、私達が来た理由を話すと安心したのか、熊達も大喜びです。

私達に協力する事に同意してくれました。

女神リーナは、この研究所のいくつかの機械を調べると、熊達にいくつかの指示を出しています。

どうやら、この星のマザー・クリスタルの状態をモニターで調べているようです。

「TAKESHI さん、この星のマザー・クリスタルは、3つあります。

現在のところ、さほどダメージは受けていないようですので、すぐに輝きを取り戻すと思います。クリスタルの活性のお手伝いをしてもらってもよいですか。」

「女神リーナよ、もちろんです。
それぞれのマザー・クリスタルのもとに、私達のメンバーを派遣しましょう。」

私は、仲間達を3つに分けマザー・クリスタルのもとに向かう事にしました。
私達が、クリスタルの活性を行っている間に、シェンロンとペガサス騎士団は、星のエネルギーを高める為に、大空から、星のエネルギーを調整してもらいます。

私達は、地下の研究所から出ると、女神リーナと熊の騎士団に案内されてマザー・クリスタルの元へと向かいます。

女神リーナと私、そしてユニバーサル魔法使いは、メインクリスタルに向かい、他のメンバーは2つに分かれて、サブ・クリスタルに向かいます。

メインのクリスタルの名前はマリアンヌという名前です。

私達はこの3つのクリスタルを活性化すると同時に、フェクダ星の次元上昇を行いました。

フェクダ星が次元上昇すると、荒涼とした岩ばかりの星が、美しい海がある緑豊かな星に変わっていきます。

そして海に浮かぶ島の一つ一つが何かしら巨大な宇宙船のようにも見えてきます。

この星には、巨大な宇宙船を作るドックのようなものが設置されているような感じさえもします。

フェクダ星が次元上昇すると、先ほどの研究所も機能を取り戻してきたようです。
もうしばらくすると、科学者達が戻ってくるような気配がします。

PART2 意識を喪失したメグレス星の大熊騎士団達

次に私達は、女神リーナと共に、メグレス星へと移る事にしました。

このメグレス星は、コンピューターの技術に優れ、時と空間をつかさどる仕事を行っている星ですので、天の川銀河にとっては、とても重要な星です。

しかし、この星は、クラシャー連合による攻撃の後が見受けられます。

それも生物兵器が使われたのか、地表に黒いヘドロのようなものがたくさんへばりついていて悪臭を放ち、私達の意識も遠くなりそうです。

一体何が起こったのか調べる為に、わし座騎士団やペガサス騎士団などの空を飛べる騎士団を中心に調べてもらいます。

この星の全てが、同じような状態ではないものの、地表に建物らしいものがある場所を中心

に、たくさんのヘドロのようなものが付着し、人々や熊達が生活する事を困難にしているようです。

私達は、「生命の孢子マー君」にお願いして、このヘドロの浄化をおねがいしました。

「生命の孢子マー君」は、「生命の水」に関わる星座の物語から、私達の仲間になった存在で、水の汚れなどを見つけると、自分の体から孢子を飛ばして、水の中で増え、不要な汚れをどんどん食べてくれます。

そして、水を浄化してくれるのです。

しかし今回は、水がない土や建物の周りにも、このヘドロが付着しているようですので、マー君だけでは、浄化が思ったように進みません。

私は、くじら座のミラ星の女神を心の中で呼び出します。

「ミラ星の女神よ、この大熊座のメグレス星に、水を運ぶくじらをよこしてください。そして、メグレス星にたくさんの雨を降らせてください。」とお願いします。

ミラ星の女神は、私に微笑んで答えます。

しばらくするとメグレス星の上に、大きなクジラ達が数頭あらわれ、上空から大量に雨を降らせてくれます。

メグレス星はたちまち、豊かな雨につつまれ、地表全てに豊かな「生命の水」が満ちあふれます。

「生命の孢子マー君」は、大喜びで次々と増殖し、地表のヘドロを浄化していきます。

そして、メグレス星に降り注いだ「生命の水」は、弱っていた植物達も元気にしてくれます。ヘドロがなくなった野原では、弱っていた植物も蘇り、さらに土の中に眠っていた種から新たな芽が出てきます。

私達の騎士団達も喜んで、「生命の水」のシャワーを浴びています。

そこに、遠くから1人の女性と熊達がこちらに向かって歩いてきます。

雨が降りヘドロ達がどんどん浄化されてきたので、隠れていた洞窟から出てきたようです。この星の騎士団である事に間違いはないようです。

私達の前に現われた女性は、女神リーナを見ると嬉しそうに走り寄り、女神リーナと抱き合っています。

彼女はメグレス星の女神エリーナという名前で、ドゥーベ星の女神リーナの姉妹であるという事です。

この星の騎士団である熊達も、女神リーナの部下であるアーノルドを見るとすぐに近寄ってきて話をしています。

この星の技術者達は、星がヘドロにおおわれてしまい、メグレス星が次元降下したために、一度この場所から去り、この星がもとに戻るのを、どこかで待っているようです。

女神エリーナは、女神リーナから私達の事を聞いたようです。
私達が来た事で、大熊座が元のような世界に戻れると希望を持ち喜んでいきます。

「偉大なる地球のマスターである TAKESHI さんと地球の女神の皆さん、そして天の川銀河の誇りである騎士団の皆さん、この宇宙の賢者である魔法使いの皆さんと巨人族の皆さん。私達は、皆さんにお会いできた事を心から嬉しく思います。
そして侵略者達により、生命が住めないような環境にされた私達の星を、救済して下さりありがとうございます。
私達は、この御恩を一生忘れる事はないでしょう。」
女神エリーナとその仲間の熊は、私達に跪き、丁寧にお礼の言葉を述べています。

「女神エリーナよ、そんなに堅苦しくかまえないでください。
私達は当然の事をしただけの事です。
しかし、この星の惨状は一体どうしたのですか。」

「本当に恥ずかしい事ですが、クラシャー連合は、この星の研究所にある大切な秘密を狙ってこの星に攻撃を仕掛けてきました。
彼等は、この星に隠された研究所に入るための通路を探していたのです。
しかし、研究所の通路を開くのは、私達と数名の者達だけしかいませんので、私達はこのような時のために用意されていた秘密の洞窟の奥深くに隠れました。

クラシャー連合は、多くの熊達を調べても、通路の入り方が分からなかったため、このヘドロのようなものを降らして熊達の意識を混乱させて、研究所への入り方を調べようとしたのです。
このヘドロには、とても有害な作用を持つ物質があり、この匂いを吸い込んだ者達は意識が混濁してしまうのです。
しかし残されていた熊達は通路を開く事ができなかったために、研究所の中にクラシャー連合が入り込む事はできなかったのですが、その熊達が大変な被害を受けてしまいました。」

確かに、浄化されたとはいえ、このヘドロの匂いは強力で気分が悪くなります。
このヘドロの中に取り残された熊達の事が心配です。

私達は、すぐに被害にあった熊達のもとに案内してもらいました。
そして、その場所に向かう間に、医者であるアスクレピオスと心の中でコンタクトを取り、メグレス星の状況を説明します。

女神エリーナが、私達を案内してくれたのは、攻撃を受けて破壊されかかった建物です。ここに、10頭ほどの熊達が意識を失って倒れています。

宇宙の光のメンバー達がすぐに駆け寄ります。

「かわいそうな熊さん達、すぐに治してあげるからね。」と遙さんが声をかけていきます。彼女達は、虹のワンドで光を送りながら「生命のしずく」を、熊達に飲ましています。

そこにアスクレピオスが到着しました。

アスクレピオスは、一頭のクマに近寄り症状を調べています。

そして、ヘドロの残りかすを調べると、何か薬草のようなものを数種類だして混ぜ始めました。

宇宙の光のメンバー達は、一生懸命に熊をさすったり、ワンドで光を送っています。

他の女神や応援に来てくれた天使達も癒しの光を送ります。

やがて、熊達がうっすらと目を開けます。

意識が戻ってきたようです。

その様子を見ていたアスクレピオスは、ホビット達にはちみつを準備させ、薬草と混ぜました。

そして騎士団達にお願いして、熊の口を開いてもらい、調合した薬草を熊の口の中に入れ飲み込ませています。

しばらくすると、熊達が、ゲホゲホと口からヘドロのかすを吐き出しました。

女神エリーナは、熊のために水を汲んできて熊達に飲ませると、さらにゲホゲホとヘドロを吐き出しています。

すると突然「生命の孢子マー君」が、孢子を出すと、孢子は熊のお腹の中に飛び込んでいきました。

熊の体の中に入って、熊の体の中から、ヘドロを浄化するようです。

熊達も目を白黒させていましたが、体の中がどんどん楽になっていくようで元気に吠えています。

今度はそれを見ていたアスクレピオスの方がびっくりしています。

アスクレピオスはまだ「生命の孢子マー君」に会った事がなかったために、彼の働きを知らないのです。

「TAKESHIさん、不思議な生命があるものですね。

この生命の浄化力はとても素晴らしい、どのような解毒剤よりも効果的かもしれません。私にも少し分けてもらってもいいですか。」

「生命の胞子マー君」は自分で意思を持っていて、アスクレピオスの言葉を聴くと、マー君から放出された胞子は自分からアスクレピオスのカバンの中に飛び込んでいきました。

「これはすごい、この子のおかげで多くの者達が救われるかもしれませんよ。」

やがて、熊達の意識が戻ってきたようです。

女神エリーナの姿を見ると、熊達はとても喜んでいました。

ここまで来ると、熊達の回復も時間の問題でしょう。

PART3 アンドレッド星からきたマスター達

私達が熊を助けている時に、葵さんが不思議な気配と心に響いてくる声に気づきました。この星に、もうひとつ異なる存在がいるようなのです。

「女神エリーナさん、私は皆さんとは異なる存在の気配と声を感じているのですが、この星にはほかにも異なる種族が存在していますか？」と葵さんは、女神エリーナに尋ねます。

「それなら、おそらく技術者と一緒に来た警備隊のグループだと思います。

彼等は、この星の科学技術や科学者達を守るための仕事をしていますので、科学者達とは仲が良く、いつも一緒に行動しています。

彼等は、このメグレス星を中心としていくつかの星にも仲間がいるそうです。」

葵さんが、その存在を呼び出すと、心の中に1人のマスターが現れました。

葵さんが彼等に、一体どうしたのですかと尋ねます。

するとマスターは、葵さんの心の中で答えます。

「我々はこの星の者ではなく、この星に来た科学者達を守るために、彼等と共に外銀河からやってきました。

しかし私の部下も、この熊達と同じように、クラシャー連合のヘドロの成分を吸い込んでしまったために、自分達が何者であるか、そして何のためにここにいるのかという事を忘れてしまい、ほとんど意識がないような状態になってしまいました。

私は、とっさに自分の身を守っていたために、意識は正常に保つ事ができたのですが、やはり多くの記憶を失ってしまったようです。

どうか、私達も救ってもらえませんか。」

葵さんが伝える言葉を聞いた女神リーナは心配そうな顔をして私達にお願いしてきます。

「TAKESHI さん、そして皆さん、どうか彼等を助けてあげてください。彼等は、この科学技術を守るためにはなくてはならない存在なのです。」私達は、葵さんの心の中に響く声をもとに、彼等がいる場所を探します。

女神エリーナが思いついたように答えます。

「おそらく彼らは研究所の通路の近くだと思います。研究所は地下にあるから、その中にクラシャー連合が入らないように、身をひそめて守っている事が多いのです。彼等が隠れている場所は、通路の近くですので、そこを探しましょう。」

私達は、女神エリーナと共に研究所の入り口あたりを探します。するとおおかみ騎士団が、得意の鼻ですぐに探し出しました。

彼等は、小さな建物の中に避難して、壁に寄り掛かるようにして座っています。彼等も意識がほとんどなく、1人のマスターだけが心配そうに見守っています。私達は先ほどと同じように、「生命のしずく」を飲ませて、虹のワンドで光を送っています。

そして、女神エリーナ達が運んできてくれた水の中に、マー君は孢子を飛ばして、水と共にマスターの部下達の体の中に入って行き、お腹の中に有るヘドロを浄化しています。その間にアスクレピオスが、薬草を配合した薬を作っています。

マスターの部下達の意識が少し戻ると、アスクレピオスの薬草を飲ませます。やはりしばらくすると、ゲホゲホと、口からヘドロのかすを何回も吐き出しています。そして、部下達の意識も少しずつ戻ってきました。

マスターは、部下が元気になっていく様子を見てうれしそうに涙を流し、私達にお礼を言ってきます。

「皆さん、本当にありがとうございます。私達も、まさか彼等がこのような方法を使うとは思いませんでした。私の大切な部下達が、このまま死んでしまったら、私には耐え難い悲しみとなるどころでした。心から感謝いたします。」

私達は、彼等とメグレス星の大熊騎士団が回復する間、彼等を宇宙の光のメンバー達やアスクレピオス様にまかせてこの星のクリスタルを活性化する事にしました。おそらく、この星のクリスタルは、かなり傷ついているのではないかと思われます。私と魔法使い達そして騎士団は、女神エリーナの案内でマザー・クリスタルに向かいます。

この星のマザー・クリスタルは1個のようですが、とても巨大なクリスタルです。まるで大きな岩の様にそそり立っています。これは巨人族のスティックスにも手伝ってもらったほうが良いようです。

騎士団とスティックスでクリスタルに光を送ってもらいます。その間に、私はクリスタルに「生命のしずく」と「光の遺伝子」を入れていきます。クリスタルが、どんどん輝きを増していきます。

ユニバーサル魔法使いとマーリン達の魔法使いのグループは、神聖幾何学をクリスタルに描き星の次元上昇の準備をします。私は、グレート・イエスとグレート・マリアにお願いして、この星の次元を上昇させてもらいます。

するとマザー・クリスタルが大きく振動して、星が動き始めました。この星の女神エリーナの姿も輝き始め、この星を支える力を取り戻しているようです。

私達が、この星を次元上昇させて戻ってくるとメグレス星の大熊騎士団もマスター達の部下も、すっかり意識を取り戻して元気になっています。私達は、女神エリーナの案内で、この星の地下にある研究所に戻る事にしました。

ここの研究所も他の星と同じように、近未来的な研究所で、様々な機械類が所狭しと置いてあります。マスターの部下と大熊騎士団は、体を休める為にそれぞれの場所に戻って行きました。私達も、ここで少し休憩をとらせてもらう事にしました。その間、私は外銀河から来たというマスターに、彼等の星の事を教えてもらいました。

「この大熊座に移ってきた私達と科学者のグループは、外銀河のアンドレッド星という星を中心とした連合体からやってきました。私は警備担当の司令官の1人でルシエルと申します。どうかよろしくお願いします。私達がいた連合は、中心となるアンドレッド星の周りがある星々で構成されています。ひとつひとつの星々は、それぞれの得意分野を研究して、その成果をアンドレッド星に持ち込みます。そしてほかの星が研究した内容と自分達の研究を統合しながら、宇宙工学に関する知識と技術を育てていったのです。

科学者達を警備するグループは、中心となるアンドレッド星で組織され、各星の技術を守る

ために、各星の規模に合わせて派遣されていました。

私達は、なるべく他の星々に、私達の存在を知られないように隠れて活動していたのですが、アンドレッド連合の非常に高度に発展した技術が、クラシャー連合に知られ、彼等から攻撃を受ける事になりました。

アンドレッド連合は、クラシャー連合の攻撃を予測し、自分達の技術を奪われないように、その一部をほかの星へ移す事に決め、この天の川銀河の大熊座に移ってきたのです。そして以前からの習慣に従い、それぞれの星の出身者達は各星に分かれ、自分達の研究を続けました。

そして、アンドレッド星から派遣された騎士団も、このメグレス星を中心に、北斗七星全体の技術者を守るために働いていたのです。

しかしこの場所も、クラシャー連合に発見されてしまいました。

クラシャー連合の攻撃により、まず各星々の連絡係であった女神カリストーやアンドレッド星の警備隊達が、心理攻撃に会い正常な意識をなくしてしまったのです。

大熊座の騎士団も一生懸命戦ったようですが、やはりクラシャー連合にはかなわず、科学者や技術者はこの星から退避してしまい、星も次元降下を起こしてしまいました。」

アンドレッド連合の警備隊のマスターはとても悔しそうに涙を浮かべました。

彼等が、多くの苦労を重ねて、自分達の技術をクラシャー連合から守ってきたのか、その涙が語っています。

私達は彼らを慰めるとともに、このメグレス星をはじめ北斗七星の星々をもとの状態に戻すために協力する事を伝えました。

ルシエル司令官は、喜んで私達と共に同行する事を約束してくれました。

そこに、女神エリーナが女神リーナと共に現れました。

「TAKESHIさん、お願いがあります。

私達には、もう1人、仲が良い姉妹がいます。

それはメラク星のラディーナですが、彼女のパートナーであるメラク座の大熊騎士団のリーダーの所在が分からないのです。

どうか、リーダーを探し出してもらえませんか、そうすると女神カリストーの行方も分かると思うのですが。」

私は、喜んで彼女を探しに行く事を約束しました。

しかし、今夜はここまでです。

私達も休む時間が来たようです。

第5章 女神と星を守る大熊座の騎士団



PART1 白熊の騎士団長を抱く女神

私達は、今日の星のツアーでは、女神エリーナ達の願いを聞いて、メラク星に入る事にしました。

メラク星は、私達が最初に訪れた大熊座の星ですが、その時はカリストーの息子のアルカスに会って、すぐに次の星に行きましたので、それほど大きな問題を感じる事なくやり過ぎてしまいました。

メラク星は、女神リーナ達の妹である女神ラディーナが守っている星ですが、この星の大熊騎士団のリーダーの行方が分からないので探してくれと、頼まれていた星です。

私達がメラク星に降り立つと、女神ラディーナがすぐにやってきました。

おそらく女神リーナから連絡が入ったのでしょう、彼女の顔は希望に満ちています。

メラク星の女神ラディーナは、私達にメラク星の大熊騎士団の団長がいなくなった状況を話

してくれます。

「彼はメラク星の騎士団のリーダーでブルートと言います。

いつも用心深くそして行動力がある騎士で多くの仲間達からも信頼されていました。

しばらく前に、空が一瞬光り輝き、森の近くでドーンという大きな音がしましたので、ブルートはそれを調べに行ったまま帰らないのです。

他の星もクラシャー連合からの攻撃もあり、私達もその事を恐れて近寄る事ができないのです。」

私達は、騎士団に頼んで森の近くを探索してもらいました。

わし座騎士団が 1 か所、湖にできた大きな裂け目があり、そこに問題がありそうだという事を伝えてきました。

私達は早速その場所に行くと、白く凍った湖の中央に大きな裂け目があります。

とても不思議ですが、この星はそれほど寒くはない星ですので、凍っている湖はここだけのようです。

一緒に来た白熊の騎士団達も、その周りを取りかこんでウロウロしています。

私達は、その裂け目に入って、中を調べる事にしました。

小柄なコロボックルの特殊工作隊を、かごのようなものに入れてひもで吊り下げて降ろします。

その裂け目は、とても深く、また暗くて、中の様子がわかりませんので、魔法使い達にお願いして周りを明るく照らしてもらいます。

コロボックル達が戻ってくると、彼等は興奮したように報告してくれます。

湖の底には、とがった金属のようなものが地面に突き刺さっており、その横には大きな白熊が倒れているとの事です。

そして、周りはすべて凍っています。

この裂け目のさらに地下には、メラク星の重要な資源が隠されている事を、メラク星のラディーナが私に話してくれました。

おそらくクラシャー連合は、その資源を狙ったのでしょう。

宇宙の魔法使いが、透視力を使い、その時の状況を詳しく見えています。

「この白熊の騎士は、湖に何か落ちてきた事を知って、水の中にもぐり調べたようです。

すると、金属の機械のようなものが見つかり、光が点滅している様子を見て、ミサイルか何かの爆発物ではないかと思ったようです。

白熊は爆発を防ぐ為に、自分の魔法に最大限の力を込めて、この金属を凍らせて動かないようにしました。

そのために、湖の水も凍ってしまったようです。

彼は、この金属をこのままにしておくと、爆発するかもしれないと思い、この金属の解体を行ったようですが、途中で力尽きて倒れてしまったようです。」

メラク星の女神ラディーナは、その話を聴いて大声で彼の名前を呼びながら泣き出してしまいました。

私は、女神ラディーナの近くに行って慰めます。

「彼はまだ死んだわけではありません。

まずこの湖から引き揚げて治療を行いますので、皆さんは、彼の意識に呼びかけて、彼が目覚めるようにしてください。

彼が生きるも死ぬも皆さん次第ですからね。」

女神ラディーナは、私の言葉に希望を持ったのか、顔をあげ「はい。」とうなずきました。女神ラディーナと女神エリーナ、女神リーナはお互いに寄り添い祈り始めました。

さて、問題はこの大きな白熊をどのようにして湖の底から助け出すか、です。

先ほどと同じように、誰かに降りてもらい、何本もの紐を白熊に結んで引っ張り上げるしかないようですが、誰が行くか、私は決めかねています。

その時、私達の騎士団のリーダーでもあるアウディケウスとさそり座のアンタレスが声を上げます。

力自慢の2人なら、白熊に嚴重に紐を結ぶのは問題ないでしょう。

そして、どのようにしてこの白熊の騎士を持ち上げるのが良いか、騎士団達に問いかけます。するとペガサス騎士団が「私達にまかせてください。」と言います。

確かに、この湖の上から引っ張ったのでは、湖の氷が崩れてしまう可能性がありますので、裂け目の上空から氷に負担をかけないように持ち上げたほうがよさそうです。

ペガサス騎士団も10頭ほどいますので、全員で協力すれば問題はないでしょう。念のために中心のひもをシェンロン達にもつないでおけばさらに安全です。

私達は急いで仕事にかかります。

先ず、アウディケウスとアンタレスが、ペガサス達のひもにぶら下がって湖の底に降りていきます。

アウディケウスとアンタレスは、自分達を降ろした紐を白熊に巻きつけているようです。

そしてしばらくすると、ペガサスに繋いだ紐が勢いよく3度引っ張られます。

準備ができたようですので、ペガサス達が一斉に、大きく翼を動かし上空へと上がっていきます。

そして、かなり上空に上がったところで、白熊のブルートの姿が見えてきます。
その姿を見て女神も騎士団も歓声を上げます。

ペガサスは、そのまま湖の岸辺まで移動し、草の上にゆっくりと白熊のブルートを下していきます。

白熊の騎士団達が、降ろされてくるリーダー達を受け止めゆっくりと草の上に降ろします。
湖の上から走ってきて息を切らしている女神ラディーナが、白熊の体にすがって泣いています。

白熊のブルートの体は、冷たく冷え切っていましたので、白熊の騎士団達が火を起こして、周りをたき火で取り囲んでくれました。

宇宙の光のメンバー達も涙をこらえながら、虹色のワンドで光を送り、「生命のしずく」を、彼の口の中に送り込みます。

私は、その間にアスクレピオスを呼びだして、白熊の治療をおねがいします。

アスクレピオスは、白熊の様子を見ると、特別な薬を処方して、白熊の口の中に流し込みます。

「この白熊は、驚くほどに生命力が豊かです。
もっと体を温めてあげれば、きっと目覚めてくるでしょう。」

白熊の騎士団と女神ラディーナが一生懸命に白熊の体を温めています。

すると白熊の体温が少しずつ上がっていくようで、肌の色が変わってきます。

ようやく、彼が目覚めてきたようです。

目を開けて周りを見渡し、嬉しそうに吠えます。

女神が涙をこらえて顔をあげます。

この星にも、女神と騎士団長が戻ってきました。

PART2 甦った女神カリストー

私達は、引き続きメラク星の次元上昇へと入る事にしました。

メラク星のマザー・クリスタルは2個あります。

一つは大きな木の近く、もう一つは森の中です。

湖に大きな金属が落ちてきた事で、クリスタルの位置が少しずれているようです。

力自慢の騎士達に手伝ってもらい、クリスタルを正しい位置に戻し活性を行う準備をします。

そして魔法使い達とグレード・ゴッデスを中心にメラク星の次元上昇を行います。

私達は、祈りと光をこのクリスタルにこめていきます。

天の川銀河を守る創造主、グレート・マリア様、グレート・イエス様の光もこの星に呼び込みます。

もちろん天の川銀河の大天使達もサポートに来ています。

メラク星がやっとの思いで動き始めました。

確かにとても大きな質量をもっている星のようです。

すると、マザー・クリスタルのひとつから、らせん状の渦巻きが沸き起こり、空に昇っていきます。

ユニバーサル魔法使いが、すぐにその渦巻を追いかけ、空に昇っていきます。

すると渦巻きがたどり着いた先にいたのは、私達が探し求めていた女神カリストーでした。

呆然自失として立ちつくし、意識も十分でないようなかわいそうな状態です。

元々はこの星でカリストーとアルカスと一緒に住んでいたようですが、カリストーが、メグレス星にいた時に、クラシャー連合のヘドロ攻撃に会い、彼女自身の意識を混乱させてしまったようです。

カリストーは、自分の子供であるアルカスの事を気遣い、アルカスの事しか考えられないようになってしまったのです。

私はすぐにアスクレピオスにお願いして意識を回復させるための治療をしてもらいました。

そして、癒しの天使達にお願いしてもらい、彼女の心を癒してもらいます。

もちろん、「生命の胞子マー君」は、彼女の中に入りヘドロのかすを浄化しています。

そしてカリストーの息子であるアルカスを呼び出し、彼女の介抱をしてもらいました。

おそらく大熊座全体の働きがもとに戻るためには、彼女がしっかりとしなければなりません。

私達は彼女に光を送ると共に、「生命のしずく」を彼女に飲ませて元気づけます。

アルカスが、必死に呼びかける声に女神カリストーが目を覚ましました。

おそらく彼女の意識が、アルカスの声によって呼び戻されたのでしょう。

「あ、あなたは、私の最愛の息子、アルカス。

私は一体どうしたのですか、頭がぼっとして何が起こったのか覚えていないのです。」

「母さん、大丈夫だよ、母さんは、メグレス星に行ったときに有害なガスを吸って意識をなくしてしまったんだよ。

でも大丈夫、みんなが母さんを救ってくれたから。

さあ、元気を出してメラク星に帰ろう。」

アルカスの言葉に遥さんが涙声で言います。

「アルカスって意外とお母さん思いなんだね。」

2人もまた一緒に暮らす事ができてよかったね。」
他のメンバー達も、涙を浮かべながらうなずいています。

女神エリーナとリーナの姉妹も、女神カリストーが目覚めた事を大変喜び、近くに寄ってきました。

「女神カリストー、大丈夫、あなたが戻ってきてくれて本当に良かった。
地球から来た TAKESHI さん達と天の川銀河の騎士団達があなたを助けてくれたのよ、
そして大熊座の星々も、彼等のお力をお借りして、これから再建していくところです。
あなたが、早く元気になって、一緒に働く事を楽しみにしているわ。
でも、その前にアルカスと一緒に家に帰ってゆっくり休んで頂戴。」

女神カリストーも周りを見渡して、自分がたくさんの仲間達に囲まれている事に安心したようです。

静かにほほ笑むと、「ありがとう」と一言つぶやきました。
私は、ペガサス騎士団にお願いして、女神カリストーとアルカスをメラク星まで送り届けてもらう事にしました。

PART3 アリオト星の危機

私達は今迄ドゥーベ星、メグレス星、フェクダ星、メラク星の騎士団と女神達を救い出し、星の次元上昇を行ってきました。

私達は、高揚した気分のまま、残りの3つの星を次元上昇させて、大熊座全体の次元上昇に入ろうとしていた矢先、大変な問題に遭遇してしまいました。

私達はこれから、大熊座の尻尾にあたる3つの星をまわり、星の女神達の所在を確かめ、星の次元上昇を行う予定です。

私達は、メグレス星に一度戻り、リーナ&エリーナの女神達と大熊座騎士団、アンドレッド星のマスターと共にアリオト星へと向かいました。

アリオト星は、宇宙船やエネルギーの原動力に関する技術を持っているので、クラシャー連合にとってはぜひとも攻略したい星であるはずで。

そして女神リーナ達も、この星の女神や騎士団達と連絡がつかないようですので大変心配しています。

女神リーナが、私達に真剣な顔をして話しかけてきます。

「ここはクラシャー連合によって、直接攻撃が行われた星ですので、どのような状態になっ

ているか心配です。

もしかしたらアリオト星の大熊騎士団もアンドレッド星のマスター達も無事ではないかもしれせん。

この星の女神であるエリーゼとも連絡がつきませんし、彼女が活着ているというエネルギーも感じられないのです。

もしかしたら、クラシャー連合も残っている可能性があるので、絶対に無理はなさないでください。」

私達は、アリオト星の手前でとどまり、ペガサス騎士団とわし座の騎士団に空から偵察させます。

わし座騎士団のビジョンから私達に、アリオト星の映像が送られてきました。

そこには、アリオト星の荒廃した森や焼けただれた廃墟が見えてきます。

地表には活着ている人がいるのかどうかさえも分からない状況ですし、クラシャー連合が残っているのか、立ち去ったかもわかりせん。

ペガサス騎士団の報告でも、相当激しい戦いが行われ、熊の騎士団達や星の住人が傷ついている様子うかがえます。

この星の姿を見せられた女神達は、涙をこらえるのに必死です。

わたしは、この星をどうしたらよいか騎士団達と相談します。

さそり座の騎士団長であるアンタレスが答えます。

「ここは、私達もすぐに救援に入りたいところですが、どこかでクラシャー連合が待ち伏せしていると、私達の騎士団にも多くの被害が出るでしょう。

どうにかしてクラシャー連合が、この星に残っているのか、残っていないのかを確かめてから、星に入ったほうが良いかと思ひます。」

他の騎士団もアンタレスに同意しているようです。

ではどうしたら、クラシャー連合がこの星に残っているか、残っていないかを調べる事ができるか、騎士団に意見を求めます。

するとアンドレッド星のマスターであるルシエルが、私に発言の許可を求めます。

「私達、アンドレッド星の警備隊も、仲間がどうなったのか大変心配です。

実は、私達は、特別な装置で姿を隠す事ができます。

姿を隠した状態であれば、クラシャー連合に見つかる事なく、彼等の事を調べる事ができます。

おそらく、彼等が待ち伏せしているとすれば、秘密の研究所に仲間達が入って行く時を狙うはずですので、その周りを重点的に探せば良いと思ひれます。

そして出来ましたら、おおかみ騎士団をお借りしたいのですが、よろしいでしょうか。

彼等がおおかみの姿で探索すれば、クラシャー連合はまさか、他の星の騎士団が仲間を助けに来たとは、思わないでしょう。

もともとこの星にいた動物だと思っただけですので、クラシャー連合も彼等を攻撃して、自分達がそこにいる事を明らかにする事もないでしょう。

クラシャー連合を探すには最適な役目だと思いますので、私達と一緒に行ってもらいたいのですが、お願いできませんか。」

騎士団のリーダー達は、アンドレッド星の警備隊の作戦に大賛成です。

おおかみ騎士団も危険がないわけではないのですが、喜んで任務を引き受けてくれました。

アンドレッド星の警備隊は最新型の宇宙船に乗っていますので、宇宙船の姿がアリオト星からみえないようにして、星に近づき警備司令官のルシエルと 10 人ほどの部下を地上に降ろしました。

そして、宇宙船はそのまま、アリオト星の周りにクラシャー連合の宇宙船がないか調べにいきました。

PART4 アリオト星の女神を命がけで守った騎士団達

私達は、ルシエルから連絡を持ちますが、もしクラシャー連合がいた時に備えての作戦も考える事にしました。

しばらくすると、アンドレッド星のルシエルから緊迫した声で連絡が入ります。

「TAKESHI さん、現在のところ地上にはクラシャー連合は見当たりませんが、地上で大変な事が起こっています。

すぐに、研究所の入り口まで、皆さんで来てもらえますか。」

私達は、連絡を受けると急いでアリオト星の研究所まで、女神リーナ達の案内で行く事にしました。

私達は、シェンロンに乗って星に急降下していきます。

研究所が隠されている地点に近づくとつれ、クラシャー連合のすさまじい攻撃のようすが目に入ってきます。

樹木は焼けて倒され、あちらこちらに砲撃の跡が残っております。

私達が、研究所に近づくと、あまりにも悲惨な光景が目飛び込んできました。

アリオト星の大熊騎士団とアンドレッド星の警備隊が、研究所を守るためにクラシャー連合と戦い、多くの者達が傷つき倒れています。

中にはすでに命を失ってしまった者も多くいます。

地上に降り立った私達はあまりにも悲惨な状況で呆然としています。

大熊座の女神達は、悲鳴を上げて泣き崩れました。

さそり座騎士団のアンタレスとアウディケウスは、騎士団に命じてまだ生きている者達を探させ、救援に当たります。

アンドレッド星の警備隊達は、医療知識もあるようですので、特別な機械を使って傷跡の治療を行って来ています。

残念ながら亡くなった者達は、私達と共に来た大熊座の騎士団達が、同じ場所に集めて弔う準備をしています。

私は、急いでアスクルピオス様とカペラ星のイシス様の治療班に連絡を取り、救護に来てもらいます。

私と各騎士団の団長、アンドレッド星のルシエル、そしてユニバーサル魔法使いは、この星の研究所に向かいます。

クラシャー連合が研究所に入り込んでいないか心配ですので調べに行きます。

研究所の入り口につくと、アリオト星の大熊騎士団の団長とアンドレッド星の警備隊のマスターが、入り口付近で倒れています。

すぐに近寄り調べると、2人ともまだ生きているようです。

アンドレッド星のルシエルが、2人の腕に注射のようなものを素早く打ちました。

すると、2人とも意識を取り戻してきた事に、私達は驚きました。

アンドレッド星の進んだ医療のおかげで、彼等は一命を取り留め、意識を取り戻したようです。

ルシエルとこのアンドレッド星の警備隊のマスターは、とても仲が良いらしく、意識を取り戻したマスターは、ルシエルを見て安心しています。

そして彼等の言語で、自分達に起こった事を話しているようです。

「みなさん、警備隊のマスターであるサナドエルの話をお伝えします。

ここは、大熊座でも宇宙工学や宇宙船の動力に関するもっとも重要な研究所だったので、クラシャー連合も、この研究所の情報が欲しくて、数回にわたる攻撃を行ってきました。

私達とアリオト星の大熊騎士団は力を合わせて、この研究所を守るために戦いましたが、多くの犠牲者を出してしまいました。

そして、女神達が傷つけられないように、自分と大熊騎士団の団長は力を合わせて、彼女をこの研究所の地下に隠し、この場所を守っていましたが、力尽きてしまったようです。」

私達は、警備隊のマスターであるサナドエルに研究所の扉を開けてもらい、急いで中に入っ
て行きました。

この扉が開けられていなかったという事は、クラシャー連合が研究所の中までは入り込んで
いないという事になります。

おそらく、女神も無事である事でしょう。

私達は、研究所の中を手分けして探すと、奥まった部屋に2人の女神が倒れています。
もしかしたら命が途絶えているのではないかと心配したのですが、ルシエルが先ほどと同じ
注射のようなものを女神達の腕に打つと、女神も意識を取り戻してきます。

きっとあまりの恐怖に気を失っていたのでしょう。

ルシエルとアウディケウスが、女神達を抱き起し、床に座させます。

しばらくは、この研究所の中で休ませたほうが良いでしょう。

今外に出ると、彼女達にとっては耐え難い光景を目にする事になるからです。

私は、さそり座騎士団のアンタレスにお願いして、女神リーナ達に女神を発見した事を伝え、
ここに連れてきてもらうようお願いしました。

アンタレスは、うなずくと急いで女神達のもとに走ります。

アンドレッド星のルシエルと部下は、この研究所を急いで調べています。

幸いな事に、クラシャー連合が入ってきた形跡はないので、科学技術の情報は盗まれていな
かったようです。

そしてこの研究所には、水や食料品、医療品などもありますので、傷ついている者達はこの
研究所の中に運び込み、治療を続けたほうがよさそうです。

私は、地上にいる仲間達を呼んで、この研究所の中に全員移動して治療を行うように指示を
出しました。

女神リーナとエリーナも、アンタレスに連れられて、アリオト星の女神のもとにやってきました。
した。

女神リーナ達は、アリオト星の女神達が生きていた事に大喜びです。

4人で抱き合って泣いています。

しかし、この星の戦闘で多くの仲間達を失った事で、アリオト星の女神達は大きなショック
を受けているようです。

彼女達の意識は、まだぼーっとしたままで言葉をしゃべる事も出来ないようです。

私達は癒しの天使達の力を借りて、彼女達を癒す時間をとる事にしました。

その間に、私達は、女神リーナとエリーナにお願いして、この星のマザー・クリスタルの修

復と活性を行う事にしました。

おそらくこの状況では、マザー・クリスタルも、大変な事になっていると思われますが、マザー・クリスタルの修復が終わり、この星の次元上昇ができれば、傷ついた者達もきっと元気になる事でしょう。

この星のクリスタルは、高くそびえる山の頂にあるようですので、私達はペガサス騎士団にお願いして、空を飛んで行こうと思います。

ペガサスは、私達を1人ずつ乗せ、大空高く舞い上がり、山の頂まで急いで向かいます。

そして、山の頂にそびえる巨大なマザー・クリスタルを見て、私達も驚きました。

それは、今まで見たどのマザー・クリスタルよりも力強く輝き、この星を光で照らしているのです。

通常のマザー・クリスタルは、星が被害を受けたり女神達が傷ついたとすると、クリスタルの輝きが失われ、傷ついている事が多いのですが、この星のクリスタルは、星や女神が傷つけられても、その傷を癒そうとするかのように、さらに神々しく輝いているのです。

私は、その力強い神聖さに言葉を失いました。

女神達も、このクリスタルに触れて癒されています。

私は「生命のしずく」を一滴クリスタルに入れました。

クリスタルは、今まで以上に輝き、この星を明るく照らしています。

私達は、このクリスタルに祈りをささげ、反対にパワーを受け取って、仲間達のもとに戻っていく事にしました。

さすがに今日の星のツアーはこれで終了です。

今日はあまりにもたくさんの事が起こり、時間も大きく超えてしまいました。

私達は、一度地球に戻り、来週の土曜日にまた、この星に戻ってくる事にします。

第6章 星にかけられた宇宙最高度の封印



PART1 未来を予知するミザール星の女神ナーナ

私達は、再びアリオト星へともどり、女神や騎士団の様子を確認する事にしました。私達が、アリオト星に着くと私達をむかえてくれたのは、アンドレッド星の警備隊のマスターであるサナドエルでした。

そして、アリオト星の大熊騎士団の団長であるグラッドです。

グラッドは、私達から見ると、ヒグマの様に頑強な体格と勇敢なパワーを持っているようです。

サナドエルとグラッドは、私達に近寄ると礼儀正しく挨拶をして話しかけます

「TAKESHI さん、そして皆さん、私達を救ってくださり大変ありがとうございます。おかげで多くの者達が元気になりました。

研究所もクラシャー連合の攻撃を免れましたし、女神達も元気になってきています。」

私達が来た事に女神達も気づいたようです。

この星の女神達が、女神リーナと共にやってきます。

「TAKESHI さん、そして皆さん。

私達の姉妹を助けてくださってありがとうございます。

彼女は、女神アリエラ、そして女神エルナド

彼女達はこう見えても、私達の中では、とても優秀な女神でアンドレッド星の科学者と共に研究を行っています。

今回の事は、彼女達にとっては大きなショックでしたが、もうすぐ立ち直って研究を始めてくれると思います。」

女神アリエラと女神エルナドは、まだ心の傷が癒えていないようですが、私達に深くお辞儀をして感謝の気持ちを表しています。

「いえ、皆さん達を救ったのは、サナドエルとグラッド達ですよ。」

この話をしはじめると、また女神達が辛い事を思い出しそうなので、私もここで口を閉ざします。

「でも女神達よ、元気になられて良かった。

私達はこれから、ミザール星とアルカイド星を調べに行ってきます。

戻ってきたら、この3つの星を共に次元上昇させて、アンドレッド星の科学者達が戻って来れるようにしましょう。

それでは、またお会いしましょう。」

私達は、女神達が元気になりつつあるのを確認して次の星に行く事にしました。

私達は、女神リーナを伴って、次のミザール星に入りました。

「TAKESHI さん、ミザール星とアルカイド星の女神とは連絡が取れていますので、この2つの星は大丈夫なようです。

クラシャー連合も、ミザール星とアルカイド星には、入っていないようです。

それぞれの星の大熊騎士団も無事ですが、科学者達とアンドレッド星からきたマスター達は姿を隠しているようです。

ただ、アリオト星の影響で、星の次元が少しばかり落ちてしまったようです。」

私達がミザール星に来るのを待っていたように、女神ナーナと大熊騎士団のレッドが迎えにきてくれました。

ミザール星の大熊騎士団は、アリオト星の大熊騎士団に比べて体格も少し小さく体毛も少し赤いようです。

そういえば、メラク星の大熊騎士団は白熊達でした。

星によって、大熊達の種類が異なっている事に、私は初めて気づきました。

「もちろんですよ、TAKESHI さん、それぞれの星の気候や特質に合わせて、熊達も少しず

つ異なる進化を遂げてきたのです。」と女神ナーナが答えました。

ナーナの言葉を聞いた女神リーナは、あわてて女神ナーナを制して言います。

「ごめんなさい、TAKESHI さん、この女神ナーナには特殊な能力があり、人が何を考えているのかを感じたり、人々や星に数日中に何が起こるのかを予知する能力があるのです。」

その言葉にナーナも、はっと気づいて私に謝ります。

「ごめんなさい、私の心の中には、時々人が考えている事やその人の数日先の姿が浮かんでくる事がよくあるのです。

この星で、研究しているのは、箱舟型宇宙船とって、ある星で大きな自然災害などが起こり星の種族が絶滅するような危機に陥った時、その星の人々や動物、植物達を救助するための大型の宇宙船なのです。

そのために、アンドレッド星の科学者達は、私が持っている特殊能力に気づき、災害が起こる時期や種族の危機を予知して、なるべく早く救助に行く事ができるように、私を教育したのです。

私は、この能力のおかげで、クラシャー連合の襲撃も予知する事ができたので、大熊座の人達はその襲撃に準備する事ができましたし、アンドレッド星の人達は、早めに別の場所に移る事ができました。」

私は、彼女の言葉でいくつかの謎が解けました。

つまり、クラシャー連合の科学力をもってすれば、研究所を襲撃し中に入る事も出来たはずなのに、どの研究所も彼等の侵入を免れたのは、あらかじめクラシャー連合の攻撃を知っていたからだったのです。

そして、彼女の予知によってアンドレッド星人達も早めに避難を行う事が出来たようです。

「女神ナーナ、私は何も気にしていませんよ、

私の心にも、いつも創造主やマスター達がいろんなメッセージや情報を送ってきますので、あなたの事も、私は十分に理解する事ができると思いますよ。

しかし、あなたのその能力が、この大熊座を大きな危機から救った事だけは確かなようです。」

「でも残念な事に、アリオト星では多くの騎士達が犠牲になってしまいました。」

「それは決してあなたのせいではありません。

アリオト星の騎士達は、どの星の騎士達よりも勇敢でプライド高い騎士でした。

彼等は女神を守る事ができて、きっと満足していると思います。

私達は、たとえ亡くなったとしても彼等の姿に、素晴らしい気迫と尊厳を感じずにはいられませんでした。」

その言葉を聴くと、女神ナーナはとても喜んでいます。

「女神ナーナよ、私達は、アリオト星の影響で、この星の次元が少し落ちているのではない

かとおもいますが、マザー・リスタルのところに連れて行ってもらえませんか、次元上昇を行いたいのですが、」

私の言葉をきいて、女神ナーナもこれからやるべき事を思い出したようです。

「TAKESHI さん、わかりました。

マザー・クリスタルのもとに行きましょう。」

私達は、女神ナーナと大熊座騎士団のレッドを先頭に歩き始めました。

私達は、森の中を歩き美しい湖のそばにたどり着きます。

マザー・クリスタルは、どこにあるのかと思い探しましたが見当たりません。

女神ナーナは、いたずらっぽく笑うと、指をパチンと鳴らしました。

すると湖の水が、湖底に吸い込まれてどんどん少なくなっていくます。

そして湖の中から現れたのは、巨大なクラスター型のクリスタルです。

まるでクリスタルの林の様に、100 本近いクリスタルが、湖底から空に向かって大きく突き出しているのです。

しかも1本1本が、通常の星のマザー・クリスタル並みの大きさなのです。

しかもその輝きは、湖の水をキラキラと反射させて、湖の上空に虹をかけるほどです。

このようなタイプのマザー・クリスタルは初めて見ました。

宇宙の光のメンバーも騎士団も驚いて、ただ見つめています。

「この星のクリスタルはとても特殊です。

私達の星が、箱舟型宇宙船の研究をしている事は言いましたが、箱舟型宇宙船の動力源はこのクリスタルなのです。

箱舟型宇宙船は、一度、多くの人々を救助したなら、その星の自然災害が収まるまで、何か月も宇宙にとどまっていなければなりません。

時として、それは何年にも及ぶ事があります。

そのために必要なのは、持続性がある動力なのです。

それがクリスタルなのです。

彼等の宇宙船は、クリスタルを動力源として動くようになっているのです。

アンドレッド星の科学者は、様々な星を調査して、この星のクリスタルを見つけました。

それが、彼等がこの大熊座に来た理由なのです。」

私は、この大熊座に関する最大の理由は、何故アンドレッド星人達がこの大熊座に来たか、という事でした。

その問いにも見事女神ナーナが答えてくれました。

「これであなたの疑問は解けたかしら。」

女神ナーナは、私の顔を覗き込んで笑います。

「もちろんですよ、ナーナ、ありがとうございます。」

私と女神達は、この湖を取り囲むようにして祈りを捧げます。

私達が持っている「生命のしずく」も、わし座騎士団によって上空から数滴クリスタルに落とされます。

クリスタルは、今まで以上に輝きはじめます。

私はグレート・イエスやグレート・マリア達のゴッデスにお願いして、ミザール星の次元上昇を行ってもらいます。

魔法使い達は、星の上空に大きな神聖幾何学を描いています。

星の大地がぐらっと動きましたので、これでミザール星も次元上昇していく事でしょう。

しかし、揺れは一度で止まり、星の次元上昇が起こりません。

これは、私達にとって初めての事で、私達の心の方が大きな動揺を感じます。

私は、ユニバーサル魔法使いに、一体どうしたのかと聞きました。

ユニバーサル魔法使いも不思議な顔をしています。

「どうしたのでしょうか、私の神聖幾何学も効果が打ち消されたようです。」

私は、女神ナーナを振り返ります。

女神ナーナは、心の中で何かを感じようと、真剣な表情をしています。

「TAKESHI さん、私はあなたにとっても大きな存在が影のように関わってきている姿を感じます。

それがどのような理由で、何をしようとしているのか、私にはわかりませんが、これは、あなたにとってはとても大切な事です。」

私は、女神ナーナが言った事の真意がわかりませんが、私達に何かが起こりかけている事だけは分かります。

私達は、次の北斗七星の最後にあたるアルカイド星の事も気になります。

私達は、疑問の解明を求めて、次の星に行く事にしました。

女神ナーナが私のもとに歩み寄り

「TAKESHI さん、私も一緒に連れて行ってもらえませんか、皆さんのお役に立ちたいのです。」

私は喜んで、彼女が共に来る事を承諾しました。

女神ナーナが指をパチンと鳴らすと、湖にはまた水が満ちクリスタルは、湖面の下に隠されました。

その女神ナーナの仕草に宇宙の光のメンバー達は、歓声を上げて、指を鳴らす練習をしています。

ます。

もちろん彼女達が指を鳴らしたところで、湖の水はピクリとも動きません。

PART2 3つの星にかけられた宇宙最高度の魔法

私達は、女神リーナと女神ナーナを引き連れて、アルカイド星へと降り立ちました。

アルカイド星はクラシャー連合による攻撃もなく被害はあまりなさそうです。

この星は、今迄の星と違ってそれほど自然が多い星ではありません。

人々は、星の地上ではなく地下に住んでいるようです。

すぐにアルカイド星の女神セリーナと大熊騎士団の団長であるグリッドが現れ、私達を歓迎してくれました。

「皆様のご活躍は、他の女神からの連絡で聴いております。

皆様のおかげで、多くの女神や騎士団が助けられたと伺い、私も大変うれしく思っています。

私達の星アルカイドは、クラシャー連合からの攻撃がなく平穏なままですが、アリオト星が攻撃を受けた為に、少しばかり次元が下降してしまっただけです。

このままではアンドレッド星の科学者達も戻ってくる事ができませんので、どうか次元の修復をおねがいしたいと思います。」

女神セリーナは、とてもクールな感じの女神のようです。

物事を合理的に考える女神かもしれません。

女神ナーナは、首をすくめて、「私とは違うタイプだから。」とささやきます。

私達は女神セリーナと共に、地下にあるマザー・クリスタルのもとに向かいます。

マザー・クリスタルは地下に隠されていたおかげで損傷はあまりありませんが、少し輝きが足りないようです。

私達は、「生命のしずく」をいれ、虹のワンドで光を送ります。

ユニバーサル魔法使い達も星の上に神聖幾何学を描き、特別な光で星を満たします。

そして、ゴッデス達に星の次元上昇をお願いして光を呼び込みます。

アルカイド星は、ミザール星と同じように、最初はぐらっとゆれて次元上昇しようとしてますが、それ以上動きません。

確かに、この星も次元降下していますので、クリスタルの活性と共に次元上昇してもよいのですが、途中で動きが止まってしまうのです。

私達も、様々な方法を試みたのですが、うまく行かず途方に暮れてしまいました。

女神ナーナが、「きっと原因が見つかるはずだから気を落とさないで。」と、私にやさしく囁きます。

いったいどうしたのだろう、私はかなり困ってしまいユニバーサル魔法使いに尋ねました。「私も不思議なのですが、かなり高度な魔法によって、星の次元上昇が妨げられているようです。それも、このアルカイド星だけでなく、ミザール星とアリオト星も、同じように封印され次元上昇できない状態である事がわかってきました。」

「いったい誰が、何のために、このような大がかりな魔法による封印を施したのでしょうか、あなたに心当たりはありますか、もしかしたらクラシャー連合の仕業ですか。」
私は魔法使いに尋ねました。

「まずクラシャー連合ではない事は確かです。
このクラスの魔法を使えるのは、この宇宙全体にも数名しかいないと思われます。」
「ユニバーサル魔法使いであれば、この封印の解除はできるでしょう。」
「いえ、私も何度か解除しようと試みたのですが、解除できないのです。」
「という事はあなた以上の力を持つ魔法使いがかけた封印という事ですか。」

ユニバーサル魔法使いは、首を横に振りながら答えました。
「おそらく、この魔法は創造主によるものなので、自分達が解除する事はできないのです。」
私は、今迄に出会った創造主の顔を思い出します。
「創造主といっても、様々な創造主がいて、その立場や役割がすべて異なっていますが、あえて星の次元上昇にストップをかけるような事を考える創造主がいるのでしょうか。」

その時、私の頭によぎったのは、先日その姿を現したグレート・オニクスと呼ばれる創造主のファミリーの1人です。
彼は、人々を目覚め成長させるために、あえて厳しい試練や制裁を与える事があります。そして人々を墮落から救い正しい道へと導いていくのです。

非常に厳しい立場にいる彼は、愛の存在であるグレート・イエスのもう一つの側面でもあります。
イエスの愛と優しさ、そしてグレート・オニクスの厳しさと試練、この2つの側面はまさに裏表で、両方のエネルギーが、私達には必要なのです。
グレート・オニクスとグレート・イエスが一つになった時、それぞれの光を上回る無限の光が生まれます。

わたしは、グレート・オニクスに、私のもとにきてくれるようお願いしました。

グレート・オニクスが、まばゆいばかりの輝きと共に、私達の前に現われます。

「偉大なるゴッデスであるグレート・オニクスよ、私達は今、この大熊座の星々を次元上昇させようとしています。星に封印がかけられ、次元上昇させる事ができません。この封印はあなたが行ったものですか、そうであれば封印を解除していただきたいのですが、」と私は頼みました。

グレート・オニクスは、私達を見て答えました。

「あなた方はこれから天の川銀河を出て、様々な銀河に向かうに事になりますが、それに値する本当の実力があるか確かめようと思ひ、私はこのような封印をかけました。どうぞこの封印を解いてください。これはあなた方へのテストです。」

私達の気持ちは、一気に落ち込んでしまいました。

私達は、大熊座の女神や騎士団を助け、大熊座を再建するために一生懸命に働いてきました。それだけでも大変な思いをしているのに、創造主でありながら、次元上昇の邪魔をするなんて許せない、という怒りさえもこみあげてきました。相手はこの宇宙最高レベルの創造主ではありますが、彼の魔法を打ち破り、星を次元上昇させて大熊座を助けてあげなければ、皆が困るのです。私の心の中で静かに熱い闘志が燃え上がります。

女神ナーナが、私のそばにきて囁きます。

「私が予知したあなたに襲いかかる影とは、この創造主の事だったようですね。でも大丈夫です。

私には、あなたがこの創造主を打ち負かし、星々の次元上昇を成功させた姿が見えていますから、あなたが負けるはずはないわよ。」

女神ナーナはいつものように、にっこり笑います。

私も彼女の言葉に元気づけられます。

PART3 創造主グレート・オニクスが仕掛けた魔法の対策

といっても、このようなケースは初めてなので、どのようにしたらよいか、皆で話し合う事にしました。

大熊座の女神達や大熊騎士団、アンドレッド星のマスター達も集まり、自分達にできる事がないか話し合いに加わります。

私はまず、このオニクスの封印について調べてくれたユニバーサル魔法使いに、封印の仕組みについて話をしてもらいます。

「先ずこの次元上昇を妨げている魔法ですが、これは3つの星に対していくつかの方法で影響を与えています。

ひとつは、1つ1つの星が動かないように魔法のネットにくるまれ、しかもそのネットは、ひとつのひものようなエネルギーにまとめられ低い次元に固定されています。

この力によって、1つ1つの星が次元上昇しないように抑えられています。

そして3つの星が相互に鎖のようなものでつながれ、どこか一つの星だけが次元上昇しないように、お互いを抑えあっています。

更には、オニクスそのもののエネルギーがそれぞれの星に重たい重力のようにかけられて、3つの星を上から押さえ込んでいます。」

騎士団達が、厄介だな～という顔をして聞いています。

「しかし、これらのポイントに対して1つ1つ攻略していくと、この魔法は解く事ができると思われます。

先ず1つは、この星を低い次元に固定しているピンのようなものをはずし、下から引っ張る力をなくす事。

次に、この星々を絡めているネットのようなものを外し星々が自由に動けるようにする事。

3番目は3つの星を互いにつなぎ合わせている鎖のようなものを外す事。

そして最後に、オニクスの気持ちをそらし、彼が3つの星を抑えている力を失わせる事。

この4つの対策ができれば、これらの星の封印は解けると思われます。」

私達は、ユニバーサル魔法使いの話をして聞いて、なるほどと思いました。

問題は、誰がこの事を行うかです。

「魔法使いよ、確かにこの4つの事を解決できれば、星々の次元上昇は可能かもしれませんがね。

話をもっと進めましょう。

次は、誰がどのような方法で行うかですね。」

「そうです、たとえば、最初の星々のネットを固定しているピンを抜く仕事は、通常の騎士団にも私達にもできません。

それは異なる次元にあるから、私達は入れなのです。

これができるのは、次元を自由に扱える巨人族のスティックス達だけだと思います。」

話を聞いていたスティックスは、うなずいています。

「今から、この星々を捕えている次元のピンがどこにあるか探しましょう。

それを探せば、おそらくピンを外す事ができると思います。」

ユニバーサル魔法使いもうなずいています。

「次にこの星にかけられた魔法のネットを外す役目ですが、これはおそらく私を含め、多くの魔法使いが、この星にかけられた魔法や神聖幾何学を無効にするための「ミラクルな神聖幾何学」を描く事で、この部分は無効にできると思いますが、3つの星を同時に行うとすれば、相当な数の魔法使いが必要になるでしょうが、これは、皆で呼びかければ集まるでしょう。」

そして次に、3つの星の鎖を解き放つ事ですが。」

女神ナーナが、ユニバーサル魔法使いの話に割り込みます。

「それは、私達の役目ね、3つの星の女神と大熊騎士団が、マザー・クリスタルを使って、すでに次元上昇しているメラク星やメグレス星とつながる事で、高い次元にある星が、私達の星を引っ張ってくれるから、3つの星の鎖は切れるという事ね。」

ユニバーサル魔法使いは、うなずいて「女神ナーナ、お見事です。」と答えます。

「それでは、3つの星の鎖の事は、星々の女神達と騎士団、そしてアンドレッド星のマスター達にお願いいたします。」

最後に、オニキスの気持ちをそらし、上から押さえつけている力をなくす仕事ですが、これはかなり高次元の仕事となりますので TAKESHI さんをお願いするしかないと思います。

オニクスに対抗できる、グレート・ゴッデス達に協力してもらい、オニキスの力を無効にする事が大事です。

そしておそらく、この3つの星のコアをオニクスが押さえつけていると思いますので、それを解除してください。」

「わかりました、それは、私と騎士団で行いましょう。」

騎士団は、星に光を送りながら、オニキスの力を弱めてください。

そしてリーダー達は、共に星々のコアに入り、オニキスの力をとり除いていきましょう。」

「そして、TAKESHI さん、もう一つ言い忘れたのですが、実際3つの星を次元上昇させるためには、ユニバーサル・エンジェルや天の川銀河の大天使達、そしてシェンロン達のカも必要ですので、彼等にも呼びかけておいてください。」

私達は、それぞれの役割について話し合い、準備にかかる事にしました。

巨人族のスティックスは、巨人族の仲間達を集め闇に消えていきました。

大熊座の女神達と大熊騎士団、そしてアンドレッド星のマスターは、みんなで話し合いをするために、一度、この星を出てメグレス星に集まっています。

次に魔法使いですが、「ミラクルな神聖幾何学」とは、単に神聖幾何学を描くのではなく、魔法使い1人1人が神聖幾何学の文字の一部として図形の中に入る事で、そこにもともと描かれている神聖幾何学や魔法を無効にする事ができるのです。

私は、カラス座にある魔法使いの学校の校長を呼び出し、事情を話して協力してくれる魔法使い達を呼び集めてくれるようお願いしました。

そして今まで出会った魔法使い達にも心の中で呼びかけました。

南十字星の魔法使い達、さそり座の魔法使い達、くじら座の魔法使い達、エリダヌス座の魔法使い達、白鳥座の賢者達、彼等も動き始めています。

セントジャーメインやマーリン達も仲間に呼びかけ始めていますので、やがて必要な数だけの魔法使い達が集まってくる事でしょう。

そして私は、グレート・イエスやグレート・マリア、グレート・アーネスト等を呼び出し、グレート・オニクスをどのようにしたら攻略出来るか、話し合いをはじめました。

PART4 グレート・オニクス VS 宇宙の光連合軍

さて、ついにグレート・オニクスとの対決の時がやってきました。

私にとっても、創造主の与えた試練を乗り越える最初の時ですので、全員が緊張しています。スティックス達からも、この3つの星をとどめていた次元を見つけ、ピンを解除する準備ができたと連絡がありました。

大熊座の女神達や騎士団達も準備ができています。

魔法使いもたくさん集まり、ユニバーサル魔法使いによって、「ミラクルな神聖幾何学」を描くためのトレーニングも終わったようです。

魔法使い達は今までに経験した事がない事を行う事に、大きな期待と喜びをもって、それぞれの星に別れていきました。

次元上昇のサポートをしてくれるユニバーサル・エンジェルと天の川銀河の大天使、シェンロン達も星の上空で待ち構えています。

そして、ゴッデス達の準備も整っているようです。

私達は、まず一番被害が大きかったアリオト星から始める事にしました。

私は、スティックスに連絡して、低い次元と星をつなぐピンを抜いてもらいます。星が大きく揺らぎ不安定な状態になります。

その様子を見た魔法使い達が、一斉に魔法の力を高めます。

自分達の体で描いた「ミラクルな神聖幾何学」が星の上にくっつき上がり輝きはじめました。

ユニバーサル魔法使いが、この「ミラクルな神聖幾何学」を使って、アリオト星にかけられたオニキスの魔法のネットのようなものをどんどん解除していきます。
星のあちらこちらで火花のようなものが飛び散っています。

それと同時に、ドゥーベ星やメラク星のマザー・クリスタルを通して、白銀の光がアリオト星のマザー・クリスタルとつながっていきます。
各星の女神と大熊騎士団が真剣に祈りをささげつながる事で、お互いの星の絆を強くし、オニキスが繋いだ鎖を断ち切ろうとしています。

多くの騎士団やシェンロン達も、皆で力を合わせて星に光を送り、星が次元上昇を行うように祈っています。
ユニバーサル・エンジェル達も、星の上空に次元上昇のための神聖幾何学を描き始めました。

後は、私達が、アリオト星を抑え込んでいるオニキスの力をとり除くだけです。
私は、グレート・イエスとグレート・マリア、そしてグレート・アーネストに呼びかけます。
「偉大なるゴッデス達よ、どうかオニキスの手からアリオト星を開放し、次元上昇させてください。」

3人のゴッデスからまぶしい光が解き放たれ、アリオト星をまぶしく輝かせます。
その光は、大熊座さえも包み込むほどのまぶしさです。
私は、アウディケウス、さそり座騎士団のアンタレスと他の星々の騎士団のリーダー、ペガサス騎士団を引き連れて、アリオト星の中に入って行きます。
おそらく星のコアにオニキスの魔法がつながれている事でしょう。

私が、星のコアに入る事を確認したユニバーサル魔法使いは、次のミザール星の封印解除に入りました。
スティックスは、ミザール星をつないでいる低次元のピンをはずし、ミザール星を担当する魔法使い達は、自分達の光を強め「ミラクルな神聖幾何学」を輝かせ始めます。
ユニバーサル魔法使いが、オニキスがかけた魔法を次々と解除していきます。

女神ナーナと大熊騎士団のレッドの力強い祈りによって、すごいパワーが星から飛び出していきます。
それもそのはず、あの星のマザー・クリスタルは半端ではない大きさとパワーを秘めていますから。
ミザール星から放たれた巨大なパワーは、オニキスによって作られた星々を束縛する鎖をこっぴみじんに砕いていきます。
この予想外のパワーと展開に、魔法使い達も度肝を抜かれています。
その影響でミザール星のオニキスの封印も簡単に解除する事ができたようです。

ユニバーサル魔法使い達は、続いてアルカイド星の封印の解除に入ります。
後は、私達がグレート・オニキスの力を星から解き放つのを待っているようです。

私達は、その頃、アリオト星のスピリチュアルレベルの中心であるコアへと向かいます。
私達は、そこにオニキスの魔法がかけられ、星の次元上昇を抑えつけている力があると感じています。

ペガサス騎士団が飛翔しながら、コアの周りを巡り、オニキスの姿を見つけました。
もちろんこのオニキスの姿は、彼の本物ではありません。
彼の力を投影したのですが、私達は、このオニキスに立ち向わなければなりません。

私達が、オニキスの前に立つと、オニキスが私を見てうなずきます。
「ここまで来れたという事は、私が星にかけた魔法もいくつかは破る事ができたという事でしょね。
皆さんは、これまでいくつもの星を巡り、多くのマスターや女神達を助けてきました。
いくつもの星の騎士団や魔法使い達の力を合わせて、その事を行った事は、何も知らない地球人としては、賞賛に値するでしょう。
しかし、これからは更に多くの解決しがたい問題や試練を乗り越えていかなければならないのです。
この程度の事に負けてしまっただけでは、あなたに課せられた大切な使命も果たす事ができませんからね。」

オニキスは、そうやって姿を消してしまいましたが、そこにはとても大きなエネルギーが残っています。
そのエネルギーは、私達と星を押しつぶさんばかりに、私達に重たくのしかかってくる。
ペガサス騎士団は、私達の真上で、大きく羽をはばたかせて、私にこの圧力が直接かかってくる事を妨げているようです。

アウディケウスは、少し離れたところで、剣を上空に向かって大きく掲げ、剣の先から稲光のようなエネルギーを発して、オニキスのエネルギーを分断しようと試みています。
それを見た他の騎士団のリーダー達も、アウディケウスを中心として、ひとつの輪になりオニキスのエネルギーに光を送り込んでいます。

やがて、この星を抑え込んでいるオニキスのエネルギーに分裂が見られてきます。
オニキスのエネルギーが不安定になり、星を押しさえつける力が弱くなってきました。
私は、その隙を狙って、グレート・イエス、グレート・マリア、そしてグレート・アーネストの光をこの星のコアに呼びこみ、星のコアとつなげます。

そうする事で、オニキスのエネルギーと星を分離する事ができるからです。

オニキスのエネルギーが、大きな光と音を立てて星から弾き飛ばされていきます。

私は、この時をねらってユニバーサル・エンジェルや大天使達にお願いして、アリオト星の次元上昇に入ります。

光が、星の中心に流れ込んできた様子を見て、ユニバーサル魔法使いは、アリオト星の上空に大きな次元上昇のための神聖幾何学を描きます。

すると、アリオト星がぐらぐらと大きく揺れて少しずつ次元上昇を始めました。

騎士団や魔法使いから大きな歓声が上がります。

アリオト星が光に包まれて元の位置へと戻りました。

私達は、アリオト星が次元上昇を行うと、続いてミザール星に移り、同じように騎士団のリーダー達の剣でオニキスのエネルギーを分断して、ゴッデス達の光を導きます。

ミザール星も、オニキスのエネルギーから分離され、光に包まれて次元上昇していきます。

続いてアルカイド星も、光に包まれ次元上昇を果たしました。

私達は、3つの星の次元上昇が終わると、3つの星の真ん中にあるミザール星へと集まりました。

私達がミザール星につくと、すでに魔法使いのグループとスティックス達、騎士団達も集まってきています。

少し遅れて、大熊座の女神達もやってきました。

私達はまず、グレート・イエス、グレート・マリア、グレート・アーネストのゴッデス達とユニバーサル・エンジェルや大天使達に感謝の言葉を述べました。

「偉大なるゴッデス、そして偉大なる大天使達よ。

大熊座の星々の次元上昇に、皆さんの力をお借りで来て大変うれしく思います。

私達は、グレート・オニキスの試練を、無事乗り越える事ができました。

私達は皆さんに心から感謝しております。」

グレート・マリアの声が私達の心の中に響きます。

「TAKESHIさん、大切な事は、皆さんが心をひとつにして協力し合う事です。

皆さん1人1人は弱い存在かもしれませんが、力を合わせて協力する事で、創造主であるゴッデスの力さえも打ち負かしてしまう事が出来るのです。

その事を、皆さんが学んだだけでも、皆さんにとっては、大きな成長だったといえるでしょう。

これからもその気持ちを忘れずに活動してください。」

グレート・マリアのメッセージが終わると、ゴッデス達も大天使達もその場を去っていきま

した。

私達は、感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

そこにグレート・オニキスの声が響いてきます。

「TAKESHI さん、そして皆さん、今回は見事に、私からの試練を乗り越える事ができましたね、

しかし、皆さんへの試練はこれで最後ではありませんので、これからもさらに力をつけてください。

そして皆さんの知識を深め、宇宙の真実をさらに追及して行ってください。

これから地球人は、大きな宇宙に出ていかなければならないのですから。」

オニキスは、その言葉と共に、ずっと消えていきましたが、私の手には、叡智の象徴である青い宝玉が一つ残されていました。

女神リーナが、大熊座の女神を代表してお礼を言っています。

「天の川銀河全域から集まって頂いた騎士団や魔法使いの皆さん、そして偉大なるマスター達よ。

私達、大熊座の女神と騎士団は、皆さんのご活躍に心から感謝しております。

皆さんのおかげで、グレート・オニキスの試練を乗り越え、アリオト星などの3つの星が次元上昇する事ができました。

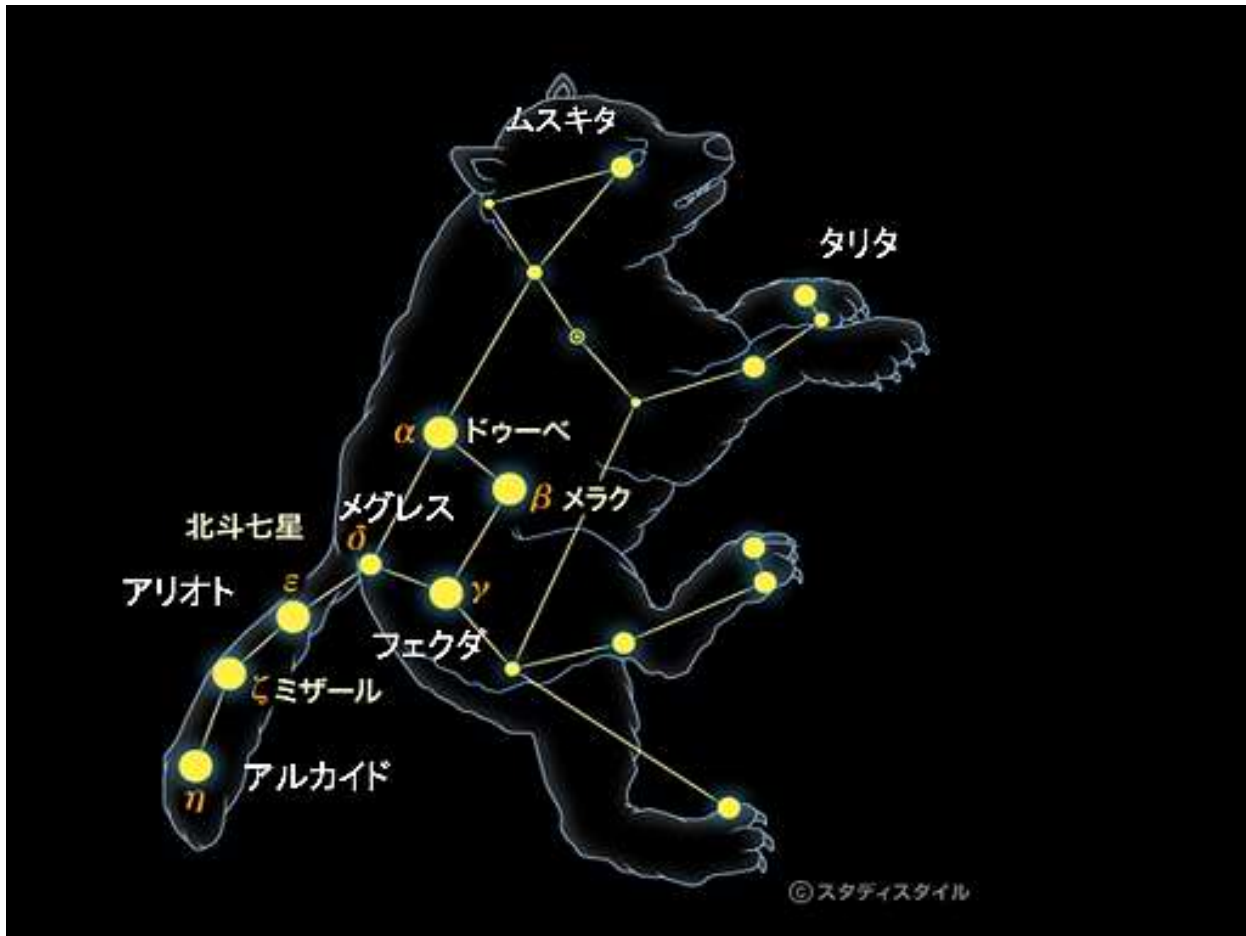
大熊座の問題も、あと少しで解決します。

よろしければ、ドゥーベ星に移り、少し休まれて行ってください。」

そういつて、女神リーナ達は、集まってくれたメンバー達をドゥーベ星に誘い、楽しい宴会を開いて、私達を楽しませてくれます。

私達も、今夜は疲れましたので、少しばかり宴会に呼ばれて地球に帰る事にしました。

第7章 星形宇宙船タリタ星の秘密



PART1 有害なウイルスによって死の星と変わったムスキタ星

今夜の星のツアーもこれから始まります。

大熊座の星のうち北斗七星を形づくる星に関しては、女神や大熊騎士団も出そろい、星の次元上昇も無事終了しました。

私達は、半月ぶりに大熊座のメラク星に降り立ちました。

まずメラク星に、すべての女神と大熊騎士団に集ってもらい、その後の星の状況を確認しました。

星を守るために自分の身をささげて凍結していたメラク星のブルートもとても元気になっていました。

私は真摯で愛情深い彼等と久しぶりにあえてとてもうれしい思いでいっぱいです。

そして意識を失い虚空に立ち尽くしていたカリストーも、しっかりと意識を取り戻し元気になっています。

気になっていたアリオト星の女神アリエラとエルナドも元気の様子です。

そして、傷ついていた各星の大熊騎士団、アンドレッド星の警備隊も傷を癒し、今迄と同じように活動し始めています。

しかし、この大熊座にいたアンドレッド星の科学者達はまだ戻ってきてないようです。

次は、さらに大熊座全体の次元を上げて、おそらく北斗七星の中央にいると思われる創造主とこの星々を結び付けていく必要があるのですが、その前にもう一つ気になっている星があります。

それは、クラシャー連合によって襲われたムスキタ星なのです。

北斗七星からも離れた星で、けっして大熊座の中心の星ではないのですが、クラシャー連合が襲ったという事は、必ず理由があるはずです。

女神達によると、ムスキタ星とタリタ星にも、女神と大熊騎士団がいるという事で、その救出を急がなくてははいけません。

女神リーナが、私達にムスキタ星の事について話し始めました。

「ムスキタ星には、宇宙工学のテクノロジーにとって大変重要な資源があるのです。

クラシャー連合がその資源をねらってムスキタ星に攻撃をかけたところ、大きな星型宇宙船であるタリタ星が、ムスキタ星を守るように防御したために、ムスキタ星だけでなくタリタ星も大きな被害を受けているのです。

この星にも私達の大切な姉妹である女神達がいるのですが、連絡が取れないのです。」

さっそくムスキタ星に私達は出かける事にしました。

騎士団達に、光の通路を作ってもらい自由に行き来ができるようにします。

今回は、オリオン座で私達に協力してくれたオリオン座の女神ベラトリックスの宇宙船でムスキタ星に行く事にしました。

偵察隊によると、ムスキタ星は、荒れ果てた大地が広がっている星で、地上には豊かな樹木や動物達の姿は見えませんが、気になる塔が一つ立っているとの報告を受けました。

通信のためのようですが、どこか不思議で、何かをカモフラージュしているようにも見えます。

私達は、この星に降りて調べる事にしました。

その時、女神ナーナが急に私達を制止します。

「星に降りるのを止めてください。

今、私の心に、星に降り立った TAKESHI さん達が急に苦しみ始める姿が映ったのです。」

私達は、女神ナーナの予知力を信頼しているので、慌てて星に降りるのを止めました。

私はアンドレッド星のマスターであるルシエルを呼び、この星の大気に異常がないかを調べ

てもらいます。

ルシエル達の宇宙船には、高度な探索システムが搭載されているので星の大気の状態なども調べる事ができます。

しばらくすると、ルシエルから連絡が入りました。

「ムスキタ星の大気の状態を調べたところ、空気中に多くのウイルス達が発見されました。このウイルスは空気によって広がっていくようですが、植物や生命体にとって必要な酸素を他の有害な気体に変える働きがあるようです。

そのために、この星の大気には酸素がなくなり、植物や生命体が枯れ果てているようです。そして、このウイルスは、あの塔から大量に放出されているようですので、クラシャー連合による意図的な攻撃と思われます。

まさに女神ナーナの言うとおりでした。」

騎士団達は女神ナーナを見て、彼女に感謝しています

しかし、女神リーナはその話を聞いて大きなショックを受けています。

「この星は、とても美しい星だったのに、なんて事をしてくれたのでしょうか。

星の酸素がなくなれば、植物も動物も生きていけないわ。

私達の大切な女神や大熊騎士団はどうなったのかしら。」

私は、まずこの星のウイルスを駆除して、この星の浄化を行わなければなりません。

ルシエルにお願いして、宇宙船から塔を破壊してもらう事にしました。

ルシエルは、宇宙船を操作して塔の上まで行き、他の場所に被害が及ばないように、塔を光線のようなもので破壊しています。

塔は光線のようなもので瞬時に焼かれ消えていきました。

ルシエルは更に、この星を探查して、他にも3つの塔を見つけましたので、その塔も始末してくれました。

次は、大気中のウイルスですが、このタイプのウイルスは、さほど長生きをするタイプではないようですので、雨と共に「生命の孢子マー君」を大気中にばらまいたり、地上に繁殖させる事で、この星の大気と大地を浄化する事ができるようです。

私はくじら座のミラ星の女神にお願いして、くじらを呼び寄せ、ムスタキ星に雨を降らせました。

「生命の孢子マー君」は、宇宙船のドアの一つを開いてもらい、自分の頭から大量の孢子を大気中に降らして、大気中にある有害なウイルスをどんどん食べていっています。

私達は、宇宙船で星の上空を何度もまわりながら「生命の孢子マー君」の孢子を振りまき星を浄化していきます。

やがて、茶色がかってどんよりとしていたムスタキ星の海が、美しい青い色に変わっていききました。

マー君の働きによって、海の中にも酸素がたくさん生まれ、海藻や魚なども元気を取り戻してきました。

地上にも、酸素が増え植物達が新たに芽を出してきます。

時間はかかるかもしれませんが、やがてムスタキ星にも、依然と同じような自然が戻ってくる事でしょう。

その様子を見た葵さん達がつぶやいています。

「自然の力ってすごいよね。

でもこんなに美しい自然を破壊するなんて許せない。

自然を破壊するのは、一瞬だけど、自然が元に戻るまでには、たくさんの時間が必要なのに。」

PART2 生きていたムスタキ星の女神

私達は、ムスタキ星に光のマカバを作り、創造主と大天使達の光りを呼び込みます。

その時、私達に近づいてくる宇宙船の姿が見えます。

アンドレッド星のルシエルからも緊急連絡が入りました。

「アンドレッド星の宇宙船を一隻探知しました。

これは、私達の仲間の船で、ムスタキ星の警備を行っていたマスター達の船です。

そして、ムスタキ星の女神と大熊騎士団も乗船しているとの事です。」

その連絡を聴いて、女神リーナとナーナの涙がぴたりと止まり、喜びの声を上げています。

女神達は、私を見てすぐにでもムスタキ星の女神に会いたいという顔をします。

私達は、女神エリーゼとムスタキ騎士団の団長であるロラルドに、私達の船に来てもらい会議室で話をする事にしました。

女神エリーゼが会議室に入ってくると、女神リーナとナーナは歓声を上げて女神エリーゼを抱きしめています。

女神エリーゼも涙を浮かべて喜んでいます。

女神達の抱擁が終わると、私達はムスタキ星で起こった事を、女神エリーゼから聞く事にしました。

女神エリーゼと大熊騎士団のロラルドは、椅子に座ります。

「これは本当に悲惨な事件でした。

私達は、アンドレッド星のマスターからクラシャー連合が、私達の星にも何かを仕掛けてく

る計画があると聞きました。

そして大熊座の他の星もクラシャー連合から攻撃を受け、大変な状態になっているとも聞かされました。

私達の星にいるアンドレッド星の科学者達は、いち早く星を出て異なる場所に隠れました。私達は、アンドレッド星の警備隊から、一緒に宇宙船に乗るように言われましたが、星を見捨てる事はできないので、ムスタキ星に残っていたのです。

私達の事を心配したアンドレッド星の警備隊も、一緒に残ってくれていたのですが、」

女神エリーゼはここまで話すと言葉を詰まらせました。

女神リーナが優しくエリーゼの手を握ります。

「クラシャー連合の宇宙船が、何か機械のようなものを降ろして作動させたとたん、周りの植物が枯れ出して動物達も死んでいったのです。

アンドレッド星の警備隊は、その様子を見ると、私達を急いで宇宙船に乗せ、ムスタキ星を脱出したのです。

私達も、そのまま残っていたら、あのウイルスによって死んでしまうところでした。

そしてその時、タリタ星の箱舟型宇宙船が私達の星の人達を救出するためにやってきてくれたのですが、このウイルスの繁殖が早くて少しの人しか救えませんでした。

クラシャー連合は、タリタ星の箱舟型宇宙船が、人々を救助するのを妨害し攻撃をしかけたのです。

私達の代わりに、タリタ星の箱舟型宇宙船が大きな被害を受けてしまい、女神がどうなったのか、私達は心配でたまりません。」

女神は顔を伏せて泣き出してしまいました。

そのあとを大熊騎士団のロラルドが続けて話します。

「私達は、他の星にも連絡を取ろうとしたのですが、クラシャー連合の宇宙船が、未だ星の周りにいたので、連絡をすると見つかってしまうと思い連絡ができませんでした。

タリタ星の箱舟型宇宙船のおかげで、私達の星の資源とある程度の人々は救われたようですが、タリタ星がうけたダメージはかなり大きいようです。

どうか、タリタ星の救助を急いでください。」

私達は、急いで箱舟型宇宙船であるタリタ星へと向かいました。

PART3 大破した星型宇宙船タリタと謎のマスター

私達は、ムスタキ星の女神を伴ってタリタ星へと向かいました。

驚いた事にタリタ星は、地表に木や花なども生えています。所々が大きくえぐれ、そこから金属の機械が見えています。

おそらく攻撃により破壊され、宇宙船の機能を損傷しているようです。

私もいくつかの星型宇宙船は見てきましたが、このように砲撃などで表面が壊され、内部が見えているものは初めてです。

実は、私達は今日の星のツアーに出発する時に、見慣れないマスターから、新しい神聖幾何学をもらいました。

私は、その星に適切なエネルギーを導くために、そこに描かれる神聖幾何学はすべて創造主や魔法使い達にお任せしていますので、私自身が神聖幾何学を意識する事も、このように授けてもらう事はありませんでした。

しかしそのマスターは、私に神聖幾何学を授け、この幾何学は宇宙工学のためのもので、壊れた宇宙船や機械などを修復したり宇宙工学に関するエネルギーを調整したりするような効果がある事を教えてくれました。

創造主の方達は、私達がこのような状況を迎える事が分かっていて、あらかじめ神聖幾何学を渡してくれたようです。

私達がこの箱舟型宇宙船を調べている間に、メンバーの1人が遠くに光る青い光を発見しました。

私達に呼びかけるように近づいてきます。

私は、メンバーにその光とハートをつないでもらい、メッセージを受け取ります。

どうやら、私達がアンドレッド連合と呼んでいる存在と関係が深い存在のようです。

見た目に細長い青い光のマスターのようですが、彼らがアンドレッド連合の科学者や技術者を指導しているようです。

彼らは7~8人のメンバーで構成されており、まず私達にアンドレッド連合の警備隊を助けていただいております、とお礼を述べてきました。

「皆さんが、大熊座に来ていただき、私達とアンドレッド星の科学者達が作った研究所を守ってくださいありがとうございます。

アンドレッド星の科学者達は、現在、危機が過ぎ去るまで私達が保護していますのでご心配なさらないでください。

皆さんが驚かれる事も当たり前ですが、天の川銀河を超えた世界には、皆さんが予想もつかないほどの優れた文明や科学が存在しています。

今はまだ、皆さんがその様な科学を使う段階には至っていませんので、私達はこの科学力を皆さんにお教えする事はできませんが、やがて、皆さんも私達と素晴らしい科学を分かち合う時が来る事でしょう。

この大熊座は、その時のために準備されているのです。

この星型宇宙船も私達が作ったものでありますが、私達が存在する次元と、この壊れた宇宙船が存在する次元が少し異なってしまいましたので、私達だけでは修復ができなくなりました。

そのために、皆さんにもその修復を手伝っていただこうと思い、特別な神聖幾何学をあなたに授けました。」

私はすこし混乱してきたようです。

私は今まで、様々な星を巡ってきましたが、そこにいるのは女神やマスターを除き、ホビットやフェアリーなどの神話的存在ばかりです。

しかし今回出てきてくれたのは、高度な機能を備えた宇宙船を持つ宇宙人という事になります。

それも大変優れた科学力や医療知識もあるようです。

その時女神ナーナが横から話しかけてきます。

「私も TAKESHI さんが戸惑っている理由がよくわかります。

私達も、彼等に初めて会った時はそうでした。

こんなに優れた科学力を持つ人達が存在している事に大きな驚きを持ったのです。

でも TAKESHI さん、受け入れてください。

皆さん地球人も、これからもっと宇宙の多くの種族と関わらなければなりません。

自分達よりもはるかに進んだ知性を持つ宇宙人と関わる事は当然の事です。」

私は、この時ハッとしました。

オニクスが、私達に言った「これから地球人は、大きな宇宙に出ていかなければならないのですから。」という言葉の意味が解ってきました。

「それでは、TAKESHI さん。

この箱舟型宇宙船の修理に入るとしましょう。

今回、私達があなたに授けた神聖幾何学を、この船に描いてください。」

私は、創造主や大天使を呼び出し、この星型宇宙船の上に、先ほどいただいた宇宙工学のための神聖幾何学を描いてもらい、光を呼び込みます。

驚いた事に、宇宙船の破壊された部分に、神聖幾何学の光から触手のようなコードが伸びてきてつながれていきます。

壊れた部分が光り輝き、その機能や外形がどんどん修復されていくようです。

先ほどの青い光をまとったマスター達も、不思議な光を箱舟型宇宙船に照射しながら宇宙船を修復しています。

おそらく、彼等の光の中にいる情報に基づいて、私が描いた神聖幾何学から出てきた触手が、現実的な宇宙船の修復を行っているようです。

宇宙船はどんどん修復されているようですが、あまりにも破壊がひどくしばらく時間がかかりそうです。

私達は、この宇宙船の修復は、青い光のマスター達にお願いして女神達を探す事にしました。

私達は、修復中の宇宙船に入り、分かれて探索します。

やがてメンバーの1人から、「すぐに来てください。」と連絡が入りました。

PART4 フェアリー姿の女神タリジーナ

騎士団の連絡を受けてその場所にいくと、暗闇の中に箱があり、それを守っている男性の姿が見えてきました。

どうやらアンドレッド星の警備隊の1人のようで、彼は箱を指さしています。

私達は急いで箱のもとにいき、中を覗き込むと厚いガラスのような蓋で覆われていますが、その中には、フェアリーのような姿をした女神が傷ついて横たわっています。

この箱は、彼女の生命維持装置のようです。

私は、アンドレッド星のマスターであるルシエルにすぐに来てもらいました。

ルシエルは生命維持装置を点検し、異常がない事を確認しましたが、生命維持装置の扉を急にあげる事は危険なので、安全な宇宙船かどこかの星の研究所に連れて行ってから開ける事にしました。

私達は、この装置ごと女神をアンドレッド星の宇宙船に積んでもらい、宇宙船の中で必要な処置をとってもらおう事にしました。

女神の名前は、タリジーナというそうです。

タリタ星の女神タリジーナが生きていた事を聞いて、女神エリーゼを始め大熊座の女神や騎士団達が大喜びをして、涙を流しています。

しかし、彼女はとても大きな肉体的、精神的ダメージを受けているようでかなり危険な状態です。

大熊座の女神と騎士団は、アンドレッド星の宇宙船に移り、彼女を取り囲むようにして輪を作り光を満たしていきます。

その時、湖のようなところに浮かんでいた小島が動き出し、その中から大熊座騎士団とアン

ドレッド星の警備隊のメンバーが出てきて、私達に手を振っています。

この小島は、小型宇宙船のようです。

母船が破壊されたために、空気がなくなる恐れが出てきたために、この中に長い間避難していたようです。

私達は、彼等を救助すると共に、この船を活性化するための作業にかかりました。

私達は、大熊座騎士団の団長であるタルナルドと共にこの星のマザー・クリスタルへと向かいます。

ただし、星といっても、この星は基本的に宇宙船なので、ここのクリスタルは通常のマザー・クリスタルではありません。

クリスタルは立方体に加工されており、宇宙船を動かす原動力となっているようです。

私達は、このクリスタルに「生命のしずく」を入れ、虹色のワンドで光をおくり、クリスタルを活性化していきます。

私達は、今後のタリタ星の修復を青い光のマスターとアンドレッド星の科学者達に任せ、ムスキタ星へと戻る事にしました。

ムスタキ星に私達が戻ると、「生命の孢子マー君」達の活躍で、美しい海が見えます。

おそらく大気の汚染状態も解消しているようです。

私達が星に降り立つと、小さな花をつけた草達が、風にゆれています。

私達は急いで、ムスキタ星の次元上昇を行うために、大熊座の女神達を伴って、マザー・クリスタルのもとに向かいます。

この星のクリスタルは全部で3個あるようです。

場所は、全てのクリスタルが、高い山の上にあるようですので、女神達にも分かれてもらい、同時に活性化する事にしました。

それぞれのクリスタルが活性化して輝き始めると、星が輝き始めます。

ユニバーサル魔法使いがいつものように次元上昇の神聖幾何学を星の上に描きます。

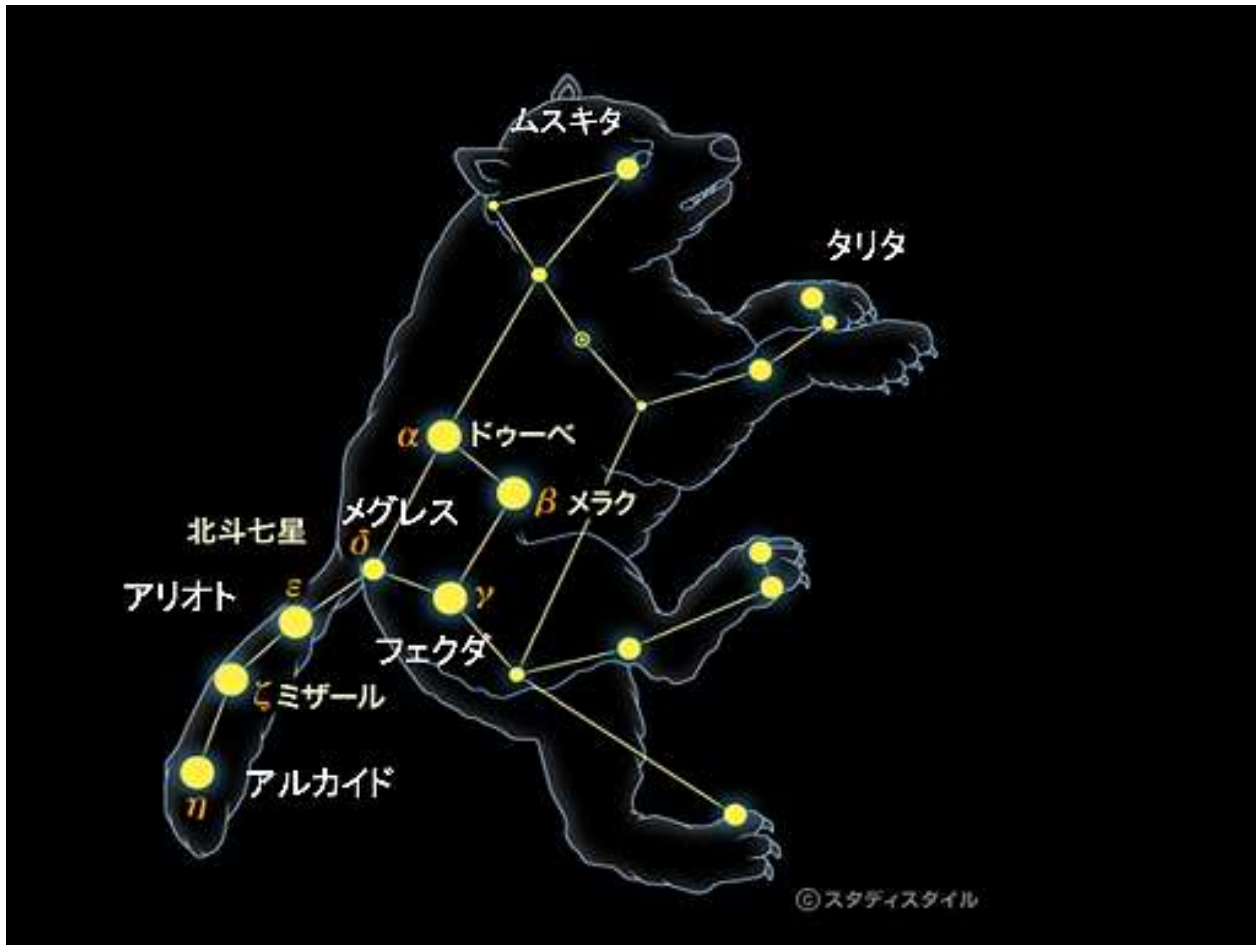
そして騎士団や魔法使い達が、次元上昇のエネルギーを送ります。

すると、北斗七星の星々からも、水の玉が転がり落ちてくるように、エネルギーのしずくが、ムスキタ星に注がれていきます。

星々が協力し合って、お互いの星を支えている事がよくわかります。

ムスタキ星は、やがて輝きを取戻し元の位置にもどっていきました。

第8章 大熊座の新たな旅立ち



PART1 大熊座の創造主の新たな旅立ち

これで大熊座の主要な星をすべて回り、女神や騎士団の救出と各星の最初の次元上昇が終わりました。

次に残された仕事は、この大熊座の創造主をこの世界に呼び戻し、最終的な星座そのものの次元上昇を行う事です。

私達は、ドゥーベ星に戻ってきました。

タリタ星の傷ついた女神タリジーナは、光のマカバに移して安全に移動させます。

彼女はしばらくほかの女神達やアスクレピオスのもとで治療を続ける必要があるようです。

女神リーナが私達のもとに歩み寄ってきます。

「TAKEASHIさん、そして皆さんのおかげで大熊座の星々と女神達は救われました。

私達が命をかけて守っていた物が、一度は破壊されかけたのですが、皆さんによって守る事ができた事をうれしく思います。

次は、この大熊座の創造主を呼び戻していただきたいのです。

この大熊座の創造主が戻り、大熊座をしっかりと統治する事ができるようになれば、アンドレッド星の科学者達も戻ってくる事ができるようになると思います。
そうしなければ、天の川銀河は、いつまでも科学的な進歩がない銀河になってしまいます。」

私達は、創造主を呼び出すための儀式に入りました。

9つの星の女神と大熊座騎士団、アンドレッド星の警備隊がそれぞれ星ごとにグループとなり、マザー・クリスタルの周りで輪を作ります。

私達の騎士団やマスター達も光を送ってお手伝いをします。

そして、全員で祈りをささげ、私達も大天使と創造主の光を呼び込みます。

大熊座の大切なまとめ役である女神カリストーにも出てきてもらい共に祈りますが、どうした事か、創造主が出てくる気配がありません。

通常であれば、ここで空から光と共に創造主が現れてハッピーエンドになるのですが、創造主が現れる気配がしないのです。

私も胸騒ぎがして、グレート・オニキスを呼び出します。

この場面でグレート・オニキスの試練はないだろうと思うのですが確認します。

グレート・オニキスは、自分はこの事に関わっていないと述べたうえで、何かが創造主が現れる事を阻んでいると伝えてきました。

私は、宇宙の魔法使いを呼び出して教えてもらう事にしました。

「TAKESHI さん、私も皆さんの祈りをずっと見ていたのですが、皆さんの祈りは、次元を超えてしっかりと創造主の元まで届いているように見えました。

しかし、創造主がその祈りを受け取っていないようです。

創造主と星々の間の糸がほつれていて結びつきが弱い事ように私には思えました。」

私達は、ユニバーサル魔法使いの勧めによって、上の次元に上がり創造主を探す事にしました。

すると、大熊座の創造主が、鎖のようなもので自分を縛り、動けない状態になっている姿が見えてきました。

創造主は、大熊座が攻撃を受け悲惨な状態になった事に大きなショックを受け、その状況を改善しようと一生懸命だったようですが、それができずに悲嘆にくれているうちに、大熊座との関係が希薄になったようです。

そのために、彼は精神的に混乱して、正常な関係が大熊座の女神達と取れずがんじがらめの状態になったようです。

私達は、星座を司る創造主の管理役であるグレート・ゴッデス達と界王様をこの場にお呼び

して、大熊座の創造主について意見を求めました。

宇宙の創造主のリーダーである界王様は、このように言われました。

「この創造主の状態では、通常の創造主の任務に戻るには時間が必要である。彼をグレート・ゴッデスのもとでしばらく休ませ、ほかの創造主をこの星によこすようにしましょう。

私の方で、心当たりがあるから、相談してみましよう。」

界王様が、私に心当たりがあるからとおっしゃられた瞬間、横にいた大熊座の創造主が泣き出し「私にどうかやらせてください。

私を大熊座の創造主から外さないでください。」と訴えてきました。

彼が、どれほど大熊座を愛しているか、十分に伝わってきます。

私は、界王様と目を合わせ、しばらく沈黙してしまいました。

そして、私は考えた後に一つの提案をしました。

「彼が、元気になって戻ってくるまでの間、大熊座を取り巻く星座の創造主達、牛飼い座とおとめ座、そしてしし座の創造主に協力してもらい、この大熊座を守ってもらう事にしましょう。

そして、他の3人の創造主と協力を保ちながら、彼が大熊座を守る創造主として立ち直っていく様子を見守りましょう。」

この大熊座は、天の川銀河にとっても重要な星座です。

大熊座を、周りの星座の創造主達が協力して守る事で、星座同士の連携もとれ、さらにより良い関係が生まれてきます。

界王様も私達の話を了承していただきましたので、さっそく牛飼い座とおとめ座、しし座の創造主を呼び出し、了解を求めました。

皆さん喜んで協力していただく事になりましたので、全員で大熊座のために祈る事にしました。

PART2 新しい種族が誕生する理由

次の報告を行う前に、私達の能力が大きく変化した事について説明したいと思います。

星のツアーが進み、私達は、天の川銀河のみならずアンドロメダ銀河やオリオン星雲などにも出かけ、様々な世界を探求し、いくつもの問題を解決してきました。

そして、私達は、多くの創造主達やゴッデス達に出会う事によって、宇宙の困難な問題を解

決するために必要な能力を目覚めさせていただきました。

宇宙を運営する創造者達の働きや今まで私達が知らなかった星々の秘密なども次々と見せられ、今までに持ちえなかった能力も与えられてきたのです。

特に際立った能力の一つに、創造主達の助けを借りて、新しい種族を生み出す能力がありました。

ユニバーサル・マリアージュ（女神ビーナス）の力により、私と他の女神や天使達の遺伝子を組みあわせて新しい種族を生み出す事ができるようになったのです。

新たな種族を生み出す目的は、異なる種族達のスピリチュアルな遺伝子を組み合わせ、すぐれた資質を合わせ持つ種族を生み出す事です。

おそらく今までも、この方法によって様々な星の人々が生み出されてきたと思います。

そして地球人も多くの優れた星の人々の遺伝子を持つ人種として生み出されたのです。

私は、物理世界において新たな種族を生み出す事はできませんが、スピリチュアルレベルにおいて、必要に応じて、新たな種族を生み出す事ができるようになりました。

この事は、まさにこの宇宙最高レベルの神秘です。

私達は、その大切な秘密に触れ、その力を使用する事を許されました。

私達と多くの異なる星の人達の間で、必要な目的に沿って新しい種族を生み出す事が可能となったのです。

新しい種族が生まれる理由は、もう一つあります。

それは、この宇宙もより高次の宇宙に向かって進化をし続けています。

宇宙の星々が進化したり、新しい星々が生まれると、その星に存在するのにふさわしい種族が必要となってくるのです。

古いエネルギーのままの星が進化するために、一度、星の次元を降下させる事があります。

そして、再度次元上昇させる事により、星のエネルギーを新しく作り変えて、星を生まれ変わらせる事ができるのです。

そして、古い種族も新しい星に適応した新しい種族に生まれ変わるのです。

あるいは、古い種族が進化していくと共に、新しい種族と融合していきます。

創造主にとって、それは進化のための新しい可能性を探る試みです。

私達は、創造主の働きの一翼を担っているようです。

私は、以前、創造主に「あなたをとおしてこの宇宙を見ている。」と言われた事があります。

宇宙の中心にいるような創造主は、物理世界から遠く離れているので、地球や天の川銀河の星々の物理世界を実際に見る事ができません。

そのために、私の意識を通して、地球や星々の物理世界を見ているのです。

私達は、いくつもの星に行って星のマスターを救い、星の次元上昇を行い、星を新しくしています。

それは、創造主の意図のもとに行っている事であり、私達をとおして、創造主は、この宇宙の現状を身近に感じるとともに、新たなる創造を行っているのです。

今回、私達がグレート・イエス、グレート・マリアと呼ばれる創造主に会い、根源なる創造主のもとへ導かれ、宇宙創造のエネルギーに直接触れる事ができました。

それは私達にとっても至福と陶酔の時でした。

そして、その時に、私達にとって初めての体験である新種族の誕生を見たのです。

私達が、創造主のエネルギーに抱かれているときに、おそらく私達の遺伝子と創造主の光の間で火花が散るように、新しい種族が生まれました。

私は、その2人の少年と少女を、コーラルとコーネリアと名付けました。

彼等は、私達の星にツアーなどにも同行するとともに、新たな世界でこれから育っていく事になるのでしょう。根源なる創造主は、新しい種族が生まれる事を大変喜んでおられます。

新しい種族の創造というのは、このように創造主の意図のもとで、異なる種族同士が一つの目的のもとに融合して、新しい資質を持つ存在を生み出す事のようなのです。

もちろん、物理世界の事ではありませんので、お互いの肉体的な接触は全く必要ありません。異なる種族が、同じ意図をもって、創造主に願う事で新しい種族というものは生まれてくるようです。

PART3 マスターAが残した言葉

その後しばらくして再び大熊座に戻り、創造主の様子をうかがうと、大熊座の創造主もだいぶ元気を取り戻してきたようです。

再び界王様とグレード・ゴッデス達にも来ていただき前回できなかった大熊座の次元と創造主の次元を繋げていく作業を今回は行う事にしました。

今回大熊座の創造主をサポートしてもらうために来ていただいた3人の創造主と大熊座の創造主、そして界王様には、創造主の次元に入ってもらいます。

大熊座の女神、大熊騎士団、アンドレッド星の警備隊は、それぞれの星に入ってもらい、各星のグループごとにマザー・クリスタルを囲んで輪を作り、そのエネルギーを一つにします。ユニバーサル魔法使いも、大熊座と創造主の次元の間に、融合のための神聖幾何学を描いて

いきます。

みんなのエネルギーが一つになり、大熊座の光が竜巻のように空に上がっていきます。そして空からも、創造主の輝きが光に満ちて降りてくると、2つの世界の間には光の鎖がつながり、しっかりと光の通路が生まれてきました。女神カリストーも加わり、大熊座の星々が、創造主の光を受けて輝き始めます。

これで、創造主と大熊座のつながりがきちんとできたようです。もちろん大熊座の星々が星座ごと、大きく次元上昇していきます。これで大熊座は元の位置に戻り、今迄の働きを再開できそうです。

すると大空に美しい青い光が輝き始めました。この光は、タリタ星の箱舟型宇宙船を修復してくれたマスターAの光に違いありません。すると青い光が、まるで流れ星のように、大熊座のそれぞれの星に降りていきます。彼等は、アンドレッド星の科学者達を保護しているといっていましたので、きっと彼等をそれぞれの星に戻してくれたに違いありません。

私がいたメグレス星にも青い光が降りてきました。もちろん光の正体は、宇宙船です。宇宙船から、マスターAに伴われて数名のアンドレッド星の科学者達が降りてきます。アンドレッド星の警備隊は、すぐに宇宙船に近寄り科学者達を迎えています。マスターAの1人が私を見つけると、私に近寄り話しかけてきます。

「私は、マスターAの評議会の1人です。皆さんにお会いできる事をとても喜んでいます。私達は、天の川銀河以外の星々から来ました。この宇宙の科学を適正なものに保つ事が私達の役割ですが、天の川銀河では、まだ科学の発達が十分ではありませんし、科学を発展させる指針も適切に備わっていません。私達は、地球も含め、天の川銀河の星の人々が、これから他の星の人達とも適正に関わる事ができるように、皆さんを指導したいと思っています。その手始めに、大熊座にアンドレッド星の科学者達を送り込み、天の川銀河の科学の発展と適正な進歩のために働いてもらおうと思っているのです。TAKESHIさんや他の星々のマスターの方達も、近いうちに科学技術の大きな進化を迎えますので、その時にその科学技術にしっかりと立ち向かえるようにしておいてください。皆さんとは、これからも時々お会いする事になると思いますので、よろしくお願いします。」

マスターAの宇宙船は、アンドレッド星の科学者達を置いて飛び立っていきました。私達は、彼等にすると、未だ科学の入口にいるにすぎないのかもしれませんが、これから起

この科学技術の進化に立ち向かう、という事はどういう意味だろうと考えています。

PART4 大熊座の新しい種族の誕生

私達は、今日予定されていた大切な仕事に移ります。

それは大熊座に新しい種族を作る事です。

今回の戦いの中で、多くの星が被害を受け、騎士達が少なくなっている事も理由ですが、大熊座が次元上昇して新しい星としてこれから生まれ変わってきますので、その星を支える新しい種族が必要なのです。

それは今まで、協力関係を作るために努力してきた大熊座の女神や大熊騎士団とアンドレッド星の科学者、アンドレッド星の警備隊のマスター達を繋ぐための象徴的な種族です。

私は、この4つの異なる種族達の遺伝子を組合わせて、4つの種族の特徴を併せ持つ新しい種族を作ろうと考えています。

私は、大熊座の全ての星々の女神と大熊騎士団、アンドレッド星の科学者とマスター達に集まってもらいました。

「皆さん、私達は、大熊座と天の川銀河の発展のために、大熊座の女神と騎士団、そしてアンドレッド星の科学者とマスターの遺伝子を組み合わせて、新しい種族を生みだしたいと思っています。

彼等は、4つの種族の素晴らしい点を合わせ持つ種族となり、皆さんの叡智とパワー、そして愛を統合した象徴的な種族となるでしょう。

彼等は、お互いの種族の壁を越え、新たな天の川銀河の種族となり、この天の川銀河に新たな科学と適正な規範をもたらす事でしょう。

どうか、新しい種族を生みだす事に協力してください。」

女神リーナが喜んで手を叩いています。

「私達もその事をしばらく前から考えていました。

アンドレッド星の人達との間に新しい種族が出来るならば、それは天の川銀河にとっても大きな進化になると考えていたのですが、私達とアンドレッド星の人達の間には、肉体的な適応に少し問題がある事が分かり、自然な形で新しい種族を生みだす事は困難だったのです。

それを、創造主様達のご意向で、新しい種族が生まれてくるとしたら、大熊座はとても素晴らしい星座になりますし、天の川銀河にも大きく貢献できる事は間違いないと思います。」

女神ナーナも喜んでいるようです。

「私にも、これからの大熊座がとても輝いて素晴らしい星になるような気がします。

どうかお願いいたします。」

私は、アンドレッド星の科学者と警備隊の代表にも、私の案に賛成してくれるか尋ねました。彼等は、自分達の言葉で話し合い、マスターAにも連絡を取って、さらに協議を重ねています。

私達は彼等の協議が終わるのを待つ事にしました。

しばらくすると、科学者のリーダーが、私達のもとにきて返事をします。

「私は科学者のリーダーであるサナットと申します。

先ず今回私達の研究所や警備隊を助けてくれた事に深く感謝の言葉を述べたいと思います。」サナットが、私達に礼をすると、科学者と警備隊も一緒に礼をします。

「そして、種族の融合の件ですが、マスターAにも尋ねましたところ、彼等からの許可が出ましたので、種族の融合にも参加させていただきたく思います。

私達も、自分達が母星としていましたアンドレッド星に戻る事はできませんので、私達も種族を融合する事で、この大熊座を私達の母星としてこれからも皆さんと一緒に生きていきたいと思いますが、その事を許していただけますか。」

大熊座の女神と大熊騎士団達も喜んでいます。

メグレス星の女神エリーナがアンドレッド星のマスターに伝えます。

「私達は、あなた方を迎えた時から家族です。

今回の戦いを通して、皆さんは、この大熊座の星々を共に守るために戦ってくれました。

私達は喜んで迎えます。」

リーダーであるサナットは、少し厳しい顔つきをしています。

「しかし、今回の争いも私達の科学技術を狙ってクラシャー連合が攻めてきたのです。

私達が大熊座に来ていなければ、皆さんはクラシャー連合に傷つけられる事もなく平和に暮らしていられたのです。

その事を考えると、私達は皆さんにとって非常に迷惑な存在ではなかったのかと思います。

それでもよいのでしょうか。」

次は女神ナーナがサナットに答えます。

「サナット様、あなた方の心配は、私達にも理解できます。

しかし、私達は今回の事を通して、今まで以上に強くなりましたし、皆さんが行っている事がどれほど重要な事であるかという事も理解できました。

私達は、昨日までの私達とは異なります。

私達の前には、新たな種族をとおして、今までにない素晴らしい世界が広がっていくと、私は信じているのです。」

サナットも女神達の言葉に心を打たれたようです。

いえ、サナットだけでなく、その場にいた私達の騎士団達も感動しています。

「それでは、話はまとまったようです。

女神達の優しさと愛。

大熊騎士団の勇気とパワー、そして星に対する適応性。

アンドレッド星のマスターの勇気と多彩な能力。

アンドレッド星の科学者の高い叡智と技能。

これらの特質を合わせ持った新しい種族が生まれる事により、女神のように優しく愛と共に生き、大熊のように勇気とパワーに満ちあふれ、アンドレッド星のマスターのように優れた勇気と能力を身にまとい、科学者のように高い叡智と技能を持つ種族が生まれてくる事を願って新種族の誕生の儀式を行います。」

界王様とイエス様、そしてマリア様にサポートをいただき、ユニバーサル・マリアージュであるビーナス様に、種族誕生のためのエネルギーをこの星におろしてもらいます。

柔らかく優しいエネルギーに包まれて、すべてのメンバーが手を握り大きなサークルを作り祈ります。

やがてサークルの中に、大きな光の柱が立ち、たくさんの火花が輝きます。

今回は、一つ一つの星に分かれる必要があるため、新種族も9グループ作らなければなりません。

いつもよりもさらに大きな火花の柱が輝き続けると、その光の中に人影が浮かび上がってきました。

男性と女性の形で9組のカップルが光の中から現れてきました。

私達は、彼等を、アールベローと名付けました。

彼等は、1組ずつそれぞれの星に別れ、星の環境や特質に合わせてどんどん進化していく事でしょう。

そして、各星の中で繁殖し、新たな子孫達をたくさん増やしていく事になります。

やがて、アンドレッド星の科学者や警備隊も、大熊座を母星とする種族に移り変わっていく事でしょう。

天の川銀河も、彼等によって大きく変わっていく事になります。

これで大熊座の物語はおしまいです。

私達は、今回の大熊座の物語によって、天の川銀河以外の星の人々が天の川銀河の人々と交流している様子を初めて見て大変うれしく思いました。

そしてマスターAのように、創造主とは異なる存在達が、私達を見守ってくれている事も初

めて知りました。

私達の旅は、これからもさらに続きます。